

## 巻頭言

### 平成 23 年度看護研究交流センター活動報告書発行にあたって

平成 23 年度の冬もまた豪雪となり、24 年の年明けとともに雪かきにくれ、この土地の人々はここ三年続けて忍耐で冬を凌いだ。正直に言えば、申し訳ないけれど、私はこの豪雪の高田の冬の景色が大好きで、左右に見上げるほどの雪の壁に囲まれて、でこぼこの路面を踏みしめるにまた、故郷に過ごす幸せを感じている。それはちょうど歌謡「高田の四季」に出てくる歌詞を思い起こさせ、この里の豊かさが心に染み入るからだろうと思う。

上越市にある新潟県立看護大学の地域交流は、文字通り地域に根ざし、地域の人々との交流を重ね、地域に大学が貢献することで人々が行き交う活動である。本年平成 23 年度における大きな変化の一つは、特別研究部門がメディカルグリーンツーリズムの新たな試みを実践し、当初の目的を達成し、今後につなげるメディカルの要素を含んだグリーンツーリズムの形を示したことだったろうか。今年の基盤は、確実に次のステップに移行し、妙高市、上越市との連携へとつなげられることとなった。また、二つ目の大きな変化は、地域課題研究開発部門が、初めて地域の看護師の研究に研究費を提供し、採択された研究グループが本学教員のバックアップのもとに、研究の過程をともに歩んだ。この成果は、次年度 9 月に発表予定である。そして三つ目の大きな変化は、本センター自体が上越教育大学との連携、上越市・妙高市との連携、コンソーシアム新潟の活動として新潟県内の他大学との連携を精力的に進めてきたことである。その任務は、今後、先駆的学習支援部門へと移管しながらセンターの役割を、拡大させているところである。

さらに、活動が定着し、さらなる変容を続けているものとして、「いきいきサロン」と「どこでもカレッジプロジェクト」がある。地域社会貢献部門は、いきいきサロンの企画実践を始めてから 3 年目を終え、ここでサロンの形が定着し、今少しずつ変化が出てきている。当初は地元の医師を中心としたいきいきサロンの講座であったが、医師だけでなく他職種や遠方の医療専門職の講座も含めて実施されるようになってきた。変わらずに夜のサロン形式を大切にしてきたが、少しずつ対象を広げた内容も含まれてきた。そして、看護職学習支援部門は、回数を重ねている講座と新たな講座とうまく組み合わせて強固な基盤固めをしてきた。ネット上の情報も受講生にうまく活用されるようになった。

こうした多くの講座の門戸を開いたことで、最近起こってきた現象は、受講生が少しずつ大学院の受験をめざし、さらなる学習機会を求めるようになってきた。これが、大学としては嬉しい成果でもある。

私は、このセンターのここ数年の活動を見守りながら、センターは確実に成長しつつあると感じることができた。そんな一年であったことを思い起こし、いつでも支えられる場におかせてもらったことに感謝し、もっともっとセンターが飛躍することを期待している。

受講してくださった地域の皆様、講義に出向いてくださった皆様、毎回の講義に尽力してくださっている教員、事務局スタッフに感謝の気持ちを心から伝えたいと思う。

平成 24 年 3 月 8 日

新潟県立看護大学 看護研究交流センター  
センター長 粟生田 友子（あおうだ ともこ）

# 平成 23 年度看護研究交流センター 活動報告書

## 目 次

<b>I. 事業費</b>	1
<b>II. 部門報告</b>	
先駆の学習支援部門報告	3
地域社会貢献部門報告	9
看護職学習支援部門報告	16
地域課題研究開発部門報告	26
特別研究部門報告	36

## I . 事業費

## 看護研究交流センター事業費

平成 23 年度予算配分額

7,415 千円

### I 各部門配分額

先駆的学習支援部門	314
地域社会貢献部門	198
看護職学習支援部門	1,519
地域課題研究開発部門	331
特別研究部門	1,500

### II 地域課題研究

研究代表者	配分額
林 八重子（長岡中央訪問看護ステーション）	100
清塙 美希（新潟県立津川病院）	100
尾矢 博子（新潟県立中央病院）	80
永石 栄子（医療法人仁愛会新潟中央病院）	100
沼 紀子（医療法人仁愛会新潟中央病院）	98
岡崎 園美（新潟厚生連羽茂病院）	99
三浦 一二美（新潟厚生連長岡中央総合病院）	90
古澤 弘美（新潟県立中央病院）	41
小林 創（国立病院機構さいがた病院）	100
III その他	
事務局管理費	2,745
合計	7,415

### III. 部門報告

## 先駆的学習支援部門

小泉美佐子，境原三津夫，平澤則子，菊地美帆  
新潟県立看護大学看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

先駆的学習支援部門は、看護・医療・福祉分野の実践や研究に関する最新の知見やトピックスについて、国内外に著名な学識者あるいは実践者を招聘し、公開講座やシンポジウムを開催することにより、地域住民の方々に学習の機会を提供するべく活動している。今年度は2回の市民公開講座を開催した。第1回目は「看護の専門性をどこに求めるのか」と題して聖路加看護大学学長の井部俊子先生、そして第2回目は「知っていますか？認知症」と題して川崎幸クリニック院長の杉山孝博先生を迎えて公開講座を行った。1回目は主として看護職・医療職向け、2回目は一般市民向けということで企画したが、保健・医療・福祉関係機関への広報の他、上越タイムスやエフエム上越等を通じて地域に幅広く広報した結果、多数の地域住民の参加が得られた。両公開講座ともに参加者に好評であり、今後も継続を要望する声が多く聞かれた。

### 平成23年度市民公開講座

#### 1. 第1回市民公開講座

【講 師】 聖路加看護大学 学長 井部俊子 先生  
【テーマ】 看護の専門性をどこに求めるのか  
【日 時】 平成23年7月9日（土）13:00～15:00

#### 【講師紹介】

新潟県出身。1969年聖路加看護大学卒業後、聖路加国際病院看護婦として18年間勤務。1987年日本赤十字看護大学講師。1993年より聖路加国際病院副院長・看護部長。2001年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士課程修了、博士（看護学）取得。2003年聖路加看護大学教授（看護管理学）、2004年より学長に就任される。

#### 【講演内容】

第1回市民公開講座は、市民の方々とともに当大学4年生に「総合科目Ⅱ」の講義の一環として聴講させたため140名近くの参加があり、看護職、看護職を目指す学生、そして一般市民の方々と共に看護の専門性について考える時間となった。

講演の前半は、日本には、日本国憲法25条「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」により、医療提供の基本となる5つの法律（医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、歯科衛生士法、医療法）があり、保健師、助産師、看護師の業務については、保健師助産師看護師法に定義されていること、それぞれ

の定義や看護師国家試験の受験資格などについて一般の方々にも分かるように説明がされた。

また、看護職の責務を記述した「看護業務基準」について説明された。日本看護協会は、1995年に公表した「看護業務基準」を改訂し、「看護業務基準（2006年度改訂版）」を作成した。「看護業務基準」は、看護実践のための行動指針及び実践評価のための枠組みを提示したものであり、その内容は看護という職種の価値観と優先事項とを反映している。「看護業務基準」は、「看護実践の基準」と「看護実践の組織化の基準」の2段構成になっており、看護業務が継続的、かつ一貫性のある看護を提供するためには組織が必要であり、組織は理念を持たなければならない。改訂版では看護業務基準が変動する時代の要請に応えるものとなるよう「看護実践の基準」の中に「看護実践の責務」と「看護実践の専門分化」に関する項目が付け加えられた。看護職が専門職として認知されるためには、専門職としての基盤を固める努力と、同時に特定看護分野における看護の質保証のための分業が必要となる。専門看護師とは、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して、水準の高い看護実践を効率よく提供するため、特定の専門看護分野の知識及び技術を深めた者をいい、2011年1月現在の登録者数は612名である。認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護を実践することができる者をいい、5年以上の臨床経験後6か月の研修を受け試験に合格した者であり、2011年7月現在9047名登録している。

講演の後半は、井部先生が週刊医学界新聞（医学書院）に連載している「看護のアジェンダ」〈第78回 看護という現象〉を紹介され、掲載記事を基に看護の専門性について語られた。それによると、5月12日は「看護の日」であり、その日を含む1週間を「看護週間」としている。日本看護協会は、看護職や一般の方々から「忘れられない看護エピソード」を募集し、第1回の2011年は1940通の応募があった。記事には一般部門の3作品が紹介されており、「看護とは何か」が冷静な描写を持って示されていた。井部先生は、3作品のなかの看護師は、ベッドサイドで家族関係を修復し、個人の価値を再発見させ、生きていくよりどころを伝えている。しかもそれは、口先だけではなく、自らの身をていして行っていると述べていた。参加者からは「忘れられない看護エピソード」に関する感想が多く、作品をとおし、理想とする看護師像の再確認、看護の本質について再認識していた。

### 【アンケート集計結果】

1) 参加者 135名（一般49名、学内86名）

2) 評価（回答数：107）

①非常に良かった	38名	②良かった	59名	③普通	10名
④少し難しかった	0名	⑤難しかった	0名		

3) 感想の一部

①「看護とは何か」についてエピソードを交えて話を聞いて、自分の中の看護観について考えることが出来ました。

②後半のエピソードのお話し感動しました。「明日からの業務、また少し頑張れるかな・・・」と思いました。

③患者さんの心に寄り添える力は看護師の強みとして、自分の力としていきたい。

## 2. 第2回市民公開講座

【講 師】 川崎 幸 <sup>さいわい</sup>クリニック 院長 杉山孝博先生

【テーマ】 知ってますか？認知症

【日 時】 平成23年11月12日（土）13:00～15:00

### 【講師紹介】

1947年愛知県生まれ。東京大学医学部附属病院で内科研修後、患者・家族とともにつくる地域医療に取り組もうと考えて、1975年川崎幸病院に内科医として勤務。以来、内科の診療と在宅医療に取り組んできた。1987年より川崎幸病院副院长に就任。1998年9月川崎病院の外来部門を独立させて川崎幸クリニックが設立され院長に就任し、現在に至る。現在訪問対象の患者は140名である。2009年4月から1年間、全国地方紙にコラム「知ってますか？認知症」を毎週掲載して好評を得た。また、認知症グループホームや特定施設（有料老人ホーム）における終末期ケアに関する厚生労働省の調査研究委員会の委員長として調査研究に携わっている。

### 【講演内容】

認知症とは、一度獲得した認知機能（記憶、認識、判断、学習など）の低下により、事故や周囲の状況把握・判断が不正確になり、自立した生活が困難になっている人の状態。つまり、知的機能の低下によってもたらされる生活障害ということができる。認知症の原因には、脳そのものの病変による一次的要因と、脳以外の身体的、精神的ストレスによる二次的要因に分けられる。認知症の介護における最大の問題は、症状の理解の難しさにある。今言ったことも忘れてしまうひどいもの忘れ、家族の顔すら忘れてしまう失認、金銭・物に対するひどい執着、徘徊、失禁など多彩な症状を、介護者は理解できず、振り回されてしまう。認知症の症状を理解し、上手な対応を可能にするためには、以下の「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」の理解が大切である。

第1法則：記憶障害に関する法則 記憶力低下、全体記憶の障害、記憶の逆行性喪失がある。

第2法則：症状の出現強度に関する法則

より身近な者に対して認知症の症状がより強く出る。

第3法則：自己有利の法則 自分にとって不利益なことは認めない。

第4法則：まだら症状の法則 正常な部分と認知症として理解すべき部分とが混在する。

第5法則：感情残像の法則

①ほめる、感謝する ②同情（相づちをうつ） ③共感（「よかったです」を付け加える）

④謝る、事実でなくても認める、上手に演技をする。

第6法則：こだわりの法則

ひとつのことにつまでもこだわり続ける。説得や否定はこだわりを強めるのみ。本人が安心できるようにもってゆくことが大切。

第7法則：作用・反作用の法則 強く対応すると強い反応が返ってくる。

#### 第8法則：認知症症状の了解可能性に関する法則

老年期の知的機能低下の特性からすべての認知症の症状が理解・説明できる。

#### 第9法則：衰弱の進行に関する法則

認知症の人の老化の速度は非常に速く、認知症になっていない人の約2~3倍のスピード。

介護に関する原則：認知症の人の形成している世界を理解し、大切にする。その世界と現実とのギャップを感じさせないようにする。

認知症の確実な予防法はなく、認知症になった時に看護しやすいように趣味などをもち、また介護が困難になるタバコやアルコールなどのような習慣に気を付けることが必要である。普段から①脳血管障害にかからないようにする ②運動をする ③活動・思考を単調にしないように努める ④家族・隣人・社会との人間関係を円滑にしておく ⑤定期的に健康診査を受けること ⑥ねたきり状態にならないような生活上の心がけ、さらに認知症を受け入れられるような地域づくりが大切である。

最後にアルツハイマー認知症の治療薬についての紹介があった。1996年から使われているアリセプト(塩酸ドネペジル)に加えて、2011年になって、メマリー錠(メマンチン塩酸塩)、レミニール(ガランタミン臭化水素酸塩)、リバスタッヂおよびイクセロン(リバスチグミン)の3種類の治療薬が保健診療で使用可能となった。この4種類の薬はすでに世界70以上の国と地域で承認されるもので、日本もやっと世界と同じレベルに達したといえよう。

今回の講座には、実際に家族を介護している方や介護の仕事に関わっている方が多く参加しており、認知症の人・介護する人の両方にストレスがかからないような関わり方を学んでいた。

#### 【アンケート集計結果】

1) 参加者 71名 (一般62名、学内9名)

2) 評価 (回答数: 58)

①非常に良かった	48名	②良かった	10名	③普通	0名
④少し難しかった	0名	⑤難しかった	0名		

3) 感想の一部

①とてもわかりやすい講演で、今認知症を家族で見守っているのですが、気持ちが楽になりました。またこのような機会があったら参加したいと思います。

②具体的にどう声をかけ、どのように対応すればいいのか、今日これからすぐ実行に移せる話で良かったです。

③現在、義母を介護中です。お話を通り症状が進んできました。が、幸い地域・家族の理解もあり、在宅中心で行っています。先が見えない不安などありますが、少し先が見えて不安が減って希望が見えたかもしれません。すべて受け止めず、時にはサラッと流しておきます。

## 上越教育大学・新潟県立看護大学連携事業

### 第1回上教大・看護大連携公開講座

【講 師】 テキサス大学アントニオ校 ヘルス・サイエンス・センター

教授 サンドラ・サンチェス先生

【テーマ】 人を勇気づけ安らぎを与えるコミュニケーションとは

— 医療現場における研究成果から —

【日 時】 平成23年11月20日（日）10時30分～12時

#### 【講師紹介】

サンドラ・サンチェス氏は、1996年コロンビアのボゴタ大学医学部大学院修了後、世界的に有名なニューヨークのアルバート・aignシュタイン医科大学で研修、その後ブロンクスのヤコービ医療センターのプライマリ・ケア主任となった。さらに、アメリカ・ニューヨーク・マウントシナイ医科大学特別研究員として研究活動を行い、現在、テキサス大学サンアントニオ校ヘルス・サイエンス・センターの医学部の教授として、老人病医学、苦痛緩和看護学等で研究・教育活動を行っている。その研究・教育活動が認められ、国立老化研究所から多額の研究費を得、医療現場での緩和ケアに関する「学際的チーム」による活動のための教育プログラム研究・開発等で、現在アメリカの医学教育領域で高い評価を得ている。



#### 【講演内容】

アメリカにおける緩和ケアは十分とは言えない。アメリカ人の約半数が病院で迎える終末期においては、約2割の患者の疼痛管理が不十分であり、半数は精神的支援を受けていない現状がある。そして、同程度の割合で、家族などの介護者も終末期のケアや医師とのコミュニケーションに不安や不満を訴えている。



本来の緩和ケアは、患者と家族とともにケアの目標を明確にし、目標達成につながらない延命治療や医療処置を保留・中止する患者や家族の意思決定をサポートするものである。そして、目標達成のために適切なケア施設への移行管理や、患者に全人的ケアを提供していく。さらに緩和ケアが適切に提供されることで、医療コストも削減できる。

これらの機能を十分に発揮させるためには、まず、私たち医療者が、患者の身体的苦痛、実際のケアと患者・家族の希望との不一致、家族介護者の金銭的・身体的・精神的負担、医療ケアの目標に関するコミュニケーション不足などがあることを理解する必要がある。また、患者が医療について自分で意思決定できるように支援する（それが困難な場合のメディカル

委任権の活用を含め) この重要さを知っている必要がある。加えて、終末期ケアに関する知識やコミュニケーション能力を向上させることが医療者に必要となる。

しかし、これらの緩和ケアに関する医療教育が、これまで不足していた。そのため現在は、教育プログラムの改善が進んでいる。また、緩和ケアに「学際的チーム」による活動を提案したい。学際的チームは、新しい職務上の組織であり、医師、看護師、ソーシャルワーカー、チャプレーンなどから成り、一致した目標に向かい専門性を發揮したケアを実施する。チームメンバーの連携によって、患者に全人的ケアが提供されていく。

緩和ケアチームは、そこに参加する家族とのコミュニケーションも大切にする。チームは、終末期における家族の様々な負担を理解し、ケアに対する要望に応えていく。また、「死別」という出来事への家族の感情を理解して、臨終に立ち会う家族に対して「お別れの仕方」のコーチング(教育)を行う役割も担っているのである。

## 地域社会貢献部門

飯吉令枝，大久保明子，片平伸子，渡邊千春，内藤みほ  
新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域社会貢献部門

地域社会貢献部門では、平成 21 年度から開催してきた「看護大いきいきサロン」を継続して企画・運営した。

「看護大いきいきサロン」は、地域住民の方々が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指して実施している。平成 23 年度は 5 月から 12 月の月に 1 回、平日夕方に実施した。講師は、上越地域で開業している医師や歯科医師および大学の教員で、それぞれの先生から、専門とするテーマでの講演のあと、地域住民の方々からの質問に答えてもらう時間を設けた。

平成 23 年度の 8 回のテーマ、講師は以下のとおりである。

### I. 平成 23 年度看護大いきいきサロンの開催状況

#### 1. 看護大いきいきサロンの開催日時およびテーマ・講師と参加人数

表 1 平成 23 年度看護大いきいきサロンの開催日時およびテーマ・講師と参加人数

回	日時	テーマ	講師	参加人数
第 1 回	5/19 (木) 18:30～19:30	ストレスとうまくつき合う方法 —介護疲れや職場のストレスを軽くするために—	上越教育大学 教授 加藤哲文先生	66 名
第 2 回	6/22 (水) 18:30～19:30	超簡単！歯周病撃退法!!	羽尾歯科医院春日山 院長 羽尾博嗣先生	66 名
第 3 回	7/20 (水) 18:30～19:30	子育て支援で子どもが増えるの? —病児保育の実践から学ぶこと—	塚田こども医院 院長 塚田次郎先生	56 名
第 4 回	8/24 (水) 18:30～19:30	入院するとボケるって本当? —高齢者せん妄の発症予防と混乱への対応—	新潟県立看護大学 教授 栗生田友子	104 名
第 5 回	9/28 (水) 18:30～19:30	更年期みんなで渡れば幸年期 —自分らしく、しあわせに生きるためのヒント—	新潟県立看護大学 講師 高島葉子	86 名
第 6 回	10/18 (火) 18:00～19:00	獣医師から見た人と動物の共通感染症	西脇小動物病院 院長 西脇薰先生	62 名
第 7 回	11/16 (水) 18:00～19:00	脳卒中にならないために	土田脳神経外科医院 院長 土田正先生	81 名
第 8 回	12/7 (水) 18:00～19:00	家族のための介護入門 —せつなくならないための少しのテクニック—	新潟県立看護大学 講師 片平伸子	63 名

高齢者のせん妄や脳卒中に関するテーマや更年期のテーマでは、参加者が 80 名以上であった。

## 2. 看護大いきいきサロン参加者のアンケート結果

### 1) 参加者の年代・性別

全体では 50 歳代が 29% と最も多く、次いで 60 歳代が 19% であった。各回の参加者の年代では、高齢者や脳卒中に関するテーマで 70 歳以上の参加者が多く、更年期のテーマで 40 歳代、50 歳代の参加者が多かった。子育てに関するテーマでは、50 歳以上の参加者が少なかった。

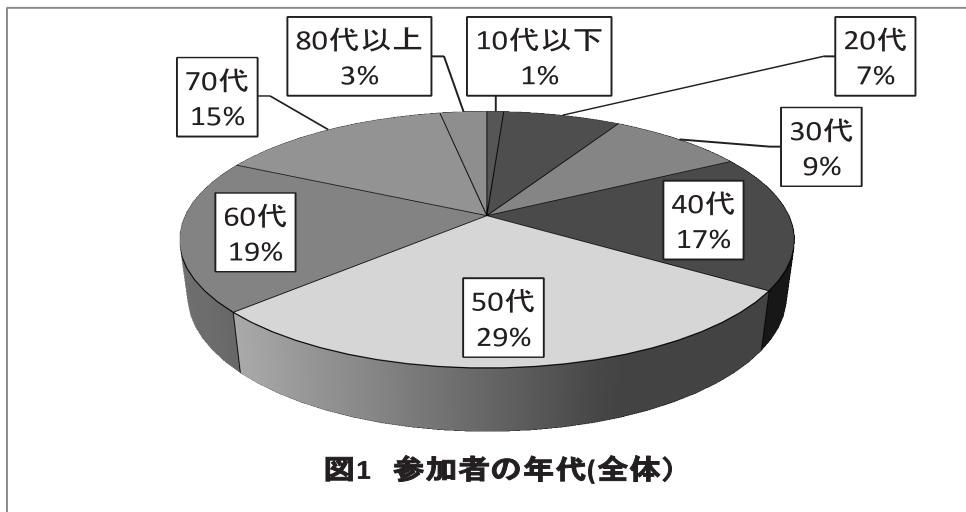


図1 参加者の年代(全体)

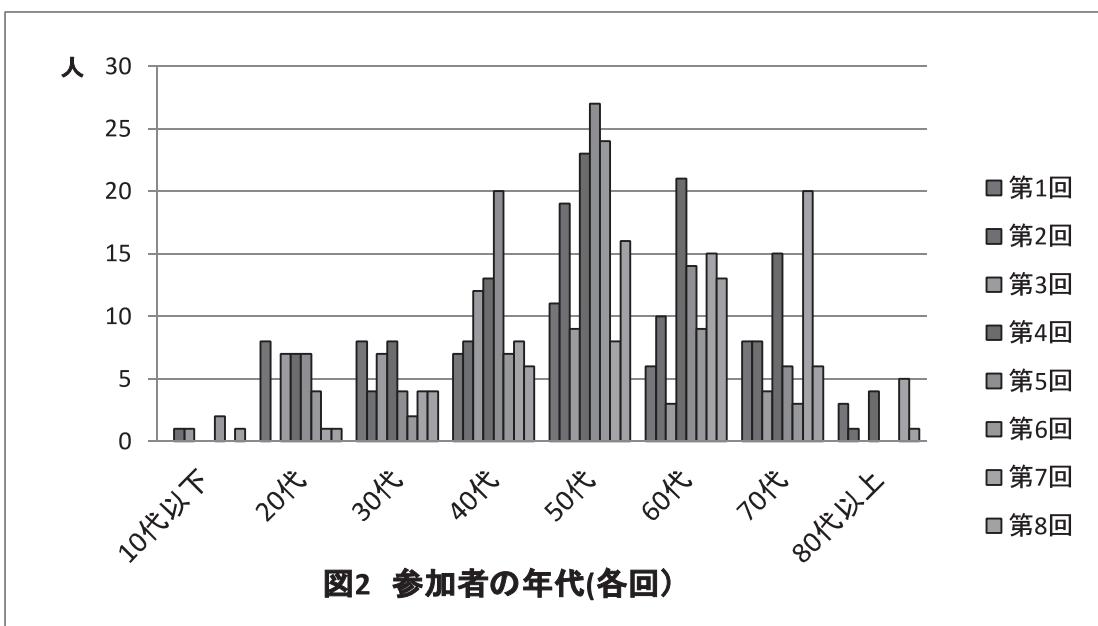
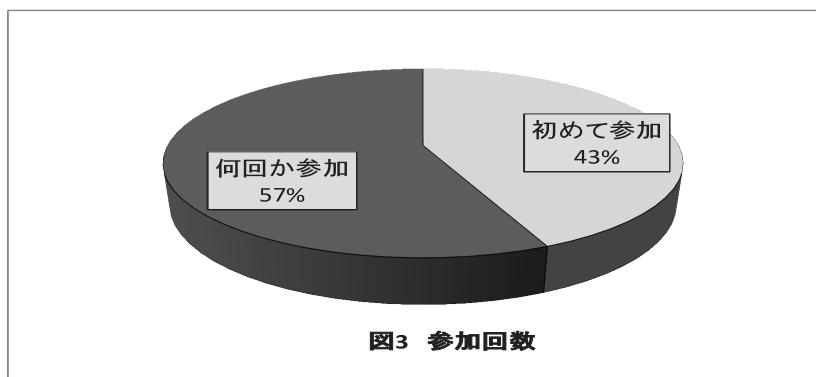


図2 参加者の年代(各回)

性別では、男性が 22%、女性が 79% であった。

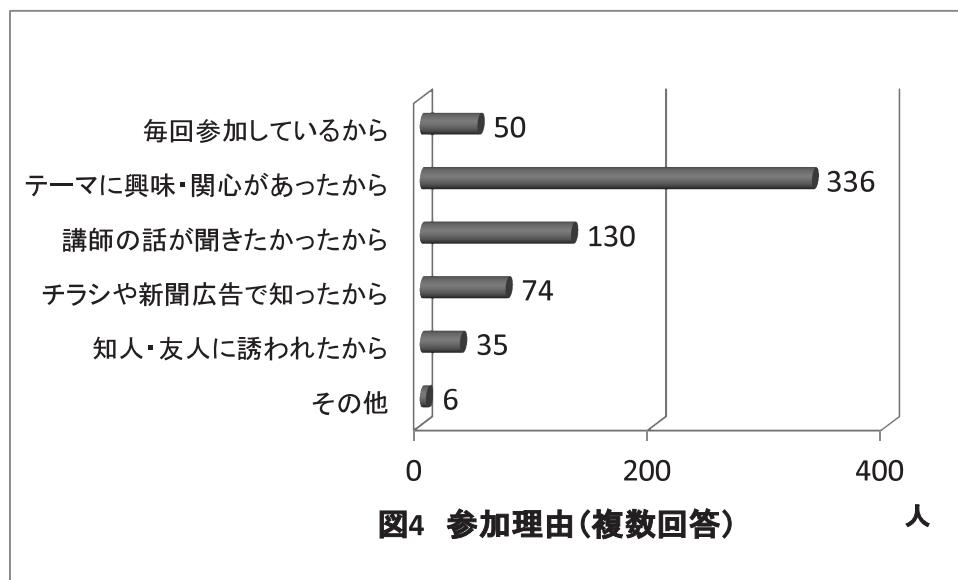
## 2) 参加回数

いきいきサロンも3年目を迎えるが、何回か参加している人が57%と、リピーターの参加が多く見られた。その反面、4割近くの人が初めての参加であった。



## 3) 参加理由

参加理由では、「テーマに興味・関心があったから」が最も多く、次いで「講師の話を聞きたかったから」であった。



## 4) 今後とりあげてほしいテーマ

ストレス解消法、アルコール依存症、認知症、感染症防止対策、消化器系の疾患、介護・看護者のための腰痛予防対策、腰痛を持った人の生活の仕方、正しいウォーキング方法、手足のしびれ、介護職（ケアマネなど）による話、サプリメントの話、子どもの急な病気の対応、助産師による命の大切さ、夏バテしない体のつくり方、声のかすれ、眼病やレーシックの話等が上げられた。

## II. いきいきサロンの運営

### 1. 企画実行メンバー

地域社会貢献部門のメンバー5名が主に企画と運営を行った。ポスター・チラシの作成、新聞広告への掲載依頼、講師交渉と接待、参加者への景品の準備、当日運営などをそれぞれが役割分担して行った。

ポスター・チラシの発送、講師資料の印刷、当日の受付等については、看護研究交流センター事務局の事務職員の方から、当日の会場準備は大学の事務職員の方々から手伝ってもらった。

当日の運営では、学生ボランティア2名から、会場準備、受付を行ってもらった。

### 2. 広報活動

看護研究交流センターの案内パンフレットの発送、FM-Jの出演（1回）、看護大いきいきサロン通信の発行（3回・資料参照）の他、毎回実施前に、ポスター・チラシの作成と配布、大学ホームページでの情報公開、JCV MJ インフォメーション、NIC かわら版、上越タイムス「くびきの創信」への掲載を行った。

### 3. 講師謝礼

学外からの講師には1回1万円および交通費を支払い、大学教員にはUSB 1本を謝礼として渡した。

### 4. 参加者への接待

昨年と同様サロンをイメージして、参加者に対してお茶のサービスを行った。初回参加者には講義資料の保管に役立つようなファイルを、また各回の参加の記念として、参加者全員に看護大いきいきサロンと大学のロゴマークがついたクリヤーファイルを配布した。

## III. 平成23年度の評価と今後の課題

いきいきサロンも3年目を迎える、地域住民の方々にも、周知されてきている。何回か参加されている方も多いが、テーマに興味・関心があつて初めて参加された方もおり、健康について地域住民の方々が気軽に学べる場になってきていると考える。また、講演後の交流会では、参加者からの積極的な質問に対する講師の丁寧な対応が好評を得ている。

今年度は、参加者への景品として、講義資料の保管に役立てもらえるよう、いきいきサロンの名前入りファイルを用意した。継続して参加されている方もおり、資料の保管に役立てることができたのではないかと考える。

反省点として、今年度は節電の影響もあり、6月開催が大変暑い中での開催となったことが上げられる。高齢者の参加も多いため、講座が開かれるときは冷暖房をつけるなどの環境面の配慮が必要である。また、天候が悪くなる12月開催は今後見直しを検討していく必要があると考える。

サロンも来年度は4年目に入るが、地域の中でホームドクター等の講師の選定が難しくなってきており、地域住民の方のニーズに合った講師を依頼していくことが今後の課題である。



新潟県立看護大学 看護交流センター 地域貢献事業

# 看護大いきいきサロン通信

第3巻 第1号

2011/04/20発行

## 看護大いきいきサロンとは

健康に関心のある地域の皆様が、気楽に集えることを目指した市民講座で、今年度で3年目を迎えます。お茶を片手に、地域のホームドクターや看護大の教員から健康に関する様々なテーマについてのお話を聞き、和やかな雰囲気の中、普段は聞けないような素朴な質問にも、わかりやすく答えていただいている。

毎回70～100人という多数のご参加をいただき、様々な感想やご意見、関心ごとを伺いながら、月に1回、平日夕方にサロンを開催しております。



## 今年度の開催予定

開催曜日と開始時間にご注意ください。

### 第1回：平成23年5月19日(木)18:30～19:30

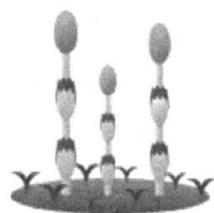
テーマ：ストレスとうまくつき合う方法－介護疲れや職場のストレスを軽くするために－  
講 師：上越教育大学 教授 加藤 哲文

昨年度、みなさまからいただいたご意見やご希望をもとに、今年度も様々なテーマを企画しました。



### 第2回：平成23年度6月22日(水)18:30～19:30

テーマ：超簡単！歯周病撃退法！！  
講 師：羽尾歯科医院春日山 院長 羽尾 博嗣



### 第3回：平成23年7月20日(水)18:30～19:30

テーマ：子育て支援で子どもが増えるの？－病児保育の実践から学ぶこと－  
講 師：塚田こども医院 院長 塚田 次郎

毎回好評のいきいきサロンオリジナルグッズ。

ご参加いただいた皆様には、講師の先生方の資料が入れられる“いきいきサロンのオリジナルファイル”を差し上げます。



### 第4回：平成23年度8月24日(水)18:30～19:30

テーマ：入院するとボケるって本当？－高齢者せん妄の発症予防と混乱への対応－  
講 師：新潟県立看護大学 教授 粟生田 友子



### 第5回：平成23年度9月28日(水) 18:00～19:00

テーマ：更年期みんなで渡れば幸年期－自分らしく、しあわせに生きるためのヒント－  
講 師：新潟県立看護大学 講師 高島 葉子

### 第6回：平成23年度10月18日(火)18:00～19:00

テーマ：獣医師から見た人と動物の共通感染症  
講 師：西脇小動物病院 院長 西脇 薫



### 第7回：平成23年度11月16日(水)18:00～19:00

テーマ：脳卒中にならないために  
講 師：土田脳神経外科医院 院長 土田 正



### 第8回：平成23年度12月7日(水) 18:00～19:00

テーマ：家族のための介護入門－せつなくならないための少しのテクニック－  
講 師：新潟県立看護大学 講師 片平 伸子



地域の皆様がいきいきと生活していくための、様々な情報を発信できるように、今年度もサロンを開催します。

どうぞ、お気軽にご参加ください。皆様にお会いできること、楽しみにしております。

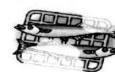
スタッフ一同



# 看護大いきいきサロン通信

第3巻 第2号 2011/09/20発行

## 看護大いきいきサロンとは



健康に関心のある地域の皆様が、気楽に集えることを目指した市民講座です。  
お茶を片手に、地域のホームドクターや看護大教員から健康に関する様々なテーマについてのお話を聞き、  
和やかな雰囲気の中、普段は聞けない質問にも、わかりやすく答えていただく交流の場です。  
月に1回、仕事帰りの方でも参加できるよう、平日夕方にサロンを開催しております。

## いきいきサロン“ダイジェスト版”



**第1回：平成23年5月19日(木)18:30～19:30**



テーマ：ストレスとうまくつき合う方法—介護疲れや職場のストレスを軽くするために—

講 師：上越教育大学 教授 加藤 哲文

※どのような刺激・出来事がストレッサーになるのか、ストレス反応を軽減させるための対処行動やリラクゼーション方法など日常生活の中でストレスとうまくつき合うことのヒントをお話いただきました。プロの臨床心理士でもある講師の「話し方・声質が聞きやすく、安心した」との感想も聞かれました。

**第2回：平成23年度6月22日(水)18:30～19:30**



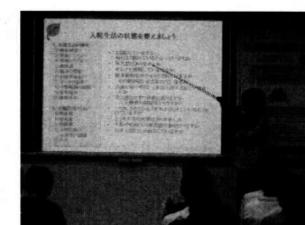
テーマ：超簡単！歯周病撃退法！！

講 師：羽尾歯科医院春日山 院長 羽尾 博嗣

※虫歯や歯周病など、悪くなつてから行くのが歯医者ではなく、日常から歯を意識して予防に力を入れていこうというお話をジョークを交えながら楽しくお聞きしました。「毎日の歯の管理の大切さ」「歯医者さんと仲良くなろう」の感想をいただきました。



**第3回：平成23年7月20日(水)18:30～19:30**



テーマ：子育て支援で子どもが増えるの？—病児保育の実践から学ぶこと—

講 師：塚田こども医院 院長 塚田 次郎

※豊富な経験と幅広いデータで、働く親の味方であり続けたいという講師の熱意が伝わってくるお話をされました。子育て世代の女性参加者が目立ちました。最後にはオリジナルソングのギターによる生演奏もありました。



## これからの開催予定

- 第5回：平成23年度9月28日(水) 18:00～19:00 「更年期みんなで渡れば幸年期—自分らしく、しあわせに生きるためのヒント—」**  
講 師：新潟県立看護大学 講師 高島 葉子
- 第6回：平成23年度10月18日(火)18:00～19:00 「獣医師から見た人と動物の共通感染症」**  
講 師：西脇小動物病院 院長 西脇 薫
- 第7回：平成23年度11月16日(水)18:00～19:00 「脳卒中にならないために」**  
講 師：土田脳神経外科医院 院長 土田 正
- 第8回：平成23年度12月7日(水) 18:00～19:00 「家族のための介護入門—せつなぐならないための少しのテクニックー」**  
講 師：新潟県立看護大学 講師 片平 伸子



皆様のご参加をお待ちしております



# 看護大いきいきサロン通信

## 看護大いきいきサロンとは？

健康に关心のある地域の皆様が、お茶を片手に、気楽に和やかに集えることを目指した市民講座です。地域の医師や看護大教員から健康に関する様々なテーマについてのお話を聞き、普段は聞けない疑問にも、分かりやすく答えます。月に1回、仕事帰りの方でも参加できるよう、平日夕方にサロンを開催しております。

## これまでのダイジェスト(9月～11月)



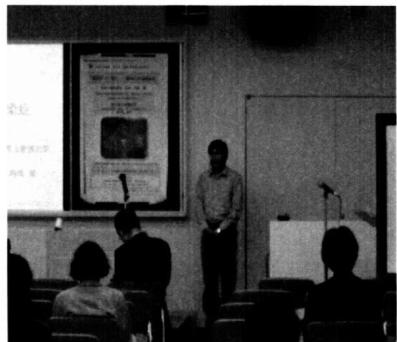
第5回：平成23年9月28日(水)18:00～19:00

テーマ：更年期 みんなで渡れば幸年期

～自分らしく生きる、しあわせに生きるためにのヒント

講師：新潟県立看護大学 講師 高島 葉子

ホルモンの仕組み、男性と女性の比較、そして、運動の取り入れ方として、明るい音楽に合わせ、皆さんと4分間の足ふみをしました。参加された方は過去の更年期を経験した方、今まさに症状が辛い方、将来のために勉強になった方それぞれでしたが、多くの方からイライラせず前向きに過ごしていきたいとの感想を頂きました。



第6回：平成23年10月18日(火)18:00～19:00

テーマ：獣医師からみた人と動物の共通感染症

講師：西脇小動物病院 院長 西脇 薫



動物との共通感染症という、人の健康だけでなく新しいテーマでの講座となりました。狂犬病ワクチンの接種率や鳥インフルエンザについて、写真や図を使って分かりやすく解説して頂きました。診察中の先生とはまた違った一面が見れたとの感想もありました。



第7回：平成23年11月16日(水)18:00～19:00

テーマ：脳卒中にならないために

講師：土田脳神経外科医院 院長 土田 正



これからの開催予定(本年度最終回)

第8回：平成23年12月7日(水)18:00～19:00

テーマ：「家族のための介護入門

一せつなくならないための少しのテクニック」



第8回のいきいきサロン開催にて、本年度は終了となります。たくさんのご参加ありがとうございました。元気ではつらつとした皆様の生活のためにお役に立てたでしょうか？

平成24年度は、5月から再開する予定です。今後も地域の皆様がいきいきと生活するためのお手伝いができるよう企画していきます。来年度もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。

看護大いきいきサロンスタッフ一同

## 看護職学習支援部門

橋本明浩, 原等子, 田口玲子, 内宮律代, 山田正実, 飯田智恵, 井上智代, 須藤陽子

新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援部門

### I. はじめに

平成 19 年 11 月～22 年 3 月まで、文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の委託を受けて、「どこでもカレッジプロジェクト」として、潜在看護師や現職看護師のリカレント学習を推進してきた。学びたい希望をもつ社会人が、場所を選ばずに自由に学びなおすことのできる学習プログラムを用意し活動してきたが、平成 22 年 4 月からは、この通称「どこカレ」（「ドコカレ」とはプロジェクトの略称です）事業を看護研究交流センターの看護職学習支援部門の事業として引き継いでいる。

### II. メイト

特にインターネット等で、このプログラムで学習を希望する方はメイトとして受講登録を行っている。（メイトは仲間を意味する「Mate」から）

総登録者数は平成 24 年 2 月 17 日現在 109 人である。

H22 メイト登録者数	18
H23 メイト登録者数	32

### III. ドコカレ通信の発行

インターネットにアクセスできないメイトもいることから、メイトさんとの相互コミュニケーションを円滑に行うために紙媒体の「ドコカレ通信」を年 10 回定期刊行している。（資料 1）

### IV. 看護職とその周辺関連職種向け専門公開講座

表 1 に開催講座とその満足度を示す。満足度とはアンケート集計結果のうち、内容について問う設問のうち、「非常によかったです」「よかったです」の数を集計し、回収数の中で割ったものである。概ね満足度が高い結果となった。

今年度は模擬患者（SP）として活動しておられる佐伯氏（東京 SP 研究会）によるシミュレーション実習、フィジカルアセスメント演習では本学教員による実技演習やグループワークなど、座学だけではなく受講生の積極的な参加による講座を開催した。看護職の継続教育としては、実践に即つながる演習や他施設スタッフとの意見交換、事例検討などが有意義であり参加者の満足度も高くなる傾向がある。今後もこのような講座形式の導入は有効であると思われる。

また、平成 24 年度の老人看護 CNS コース開設に向けて専門看護師による活動実践紹介の講座を開催し、非常に多くの参加者を得た。今後も大学院教育との連携を視野に入れた講座の開催も考慮していきたい。

表 1 平成 23 年度開催専門公開講座

No.	日時	講座名	講師	参加者数	満足度
1	6月 18 日(土)	患者の立場から見た医療者の言葉の使い方	東京 SP 研究会 代表 佐伯晴子	99	92%
2	9月 13 日(火) 9月 14 日(水)	看護情報処理セミナー (基本操作、統計処理等)	新潟県立看護大学 教授 橋本明浩 助教 永吉雅人	8	/
3	9月 17 日(土)	高齢者のエンド・オブ・ ライフケア	青梅慶友病院・ よみうりランド 慶友病院 看護介護開発室長 桑田美代子	204	91%
4	9月 20 日(火) 9月 21 日(水)	院内研究発表入門 —研究発表を効果的に 行うために—	新潟県立看護大学 教授 橋本明浩 助教 永吉雅人	8	/
5	10月 1 日(土)	フィジカルアセスメント 講義・演習 (呼吸器/循環器)	はやつクリニック 内科呼吸器科 院長 早津邦広 新潟県立看護大学 准教授 原等子 講師 山田正実	55	80%
6	10月 29 日(土)	フィジカルアセスメント 講義・演習 (消化器/運動器)	新潟県立看護大学 教授 中野正春 准教授 原等子 助教 飯田智恵	39	74%
参加者数計				415	88%

表 2 年度別参加者数の推移

年度	参加者数
平成 22 年度	264
平成 23 年度	415

#### V. バーチャルカレッジ利用回数

本学からの利用を除いた利用回数の推移を示す。(図 1 月別 Login 利用回数の推移)

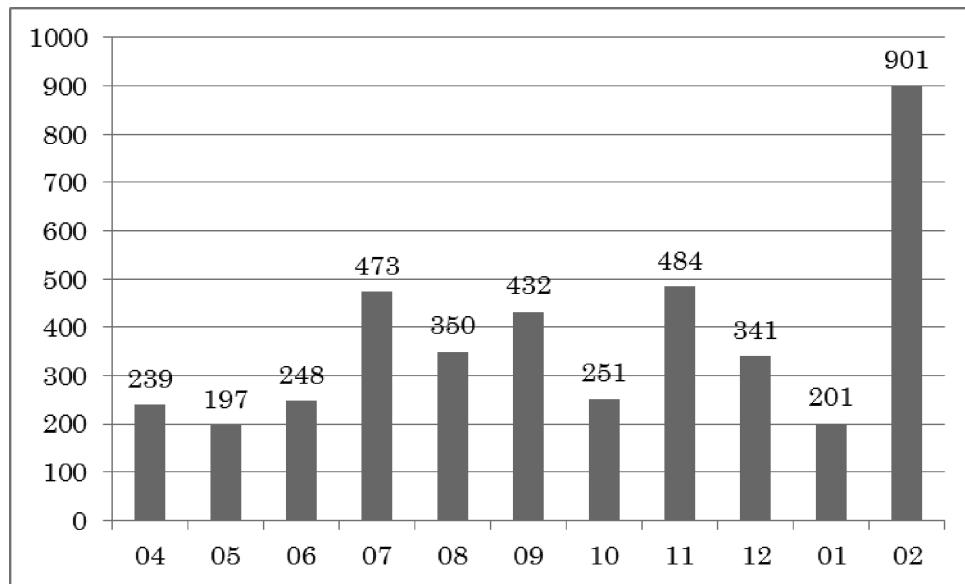


図 1 月別 Login 利用回数の推移

#### VI. 部門員の構成

以下に部門員の職位と領域を示す。一部領域を除いて全領域にわたる。

表 3 部門員の構成と職位

領域	職位	氏名
基盤科学領域 情報科学	教授	橋本明浩
地域生活看護学領域 老年看護学	准教授	原 等子
地域生活看護学領域 精神看護学	准教授	田口玲子
臨床看護学領域 母性看護学	講師	内宮律代
臨床看護学領域 成人看護学	講師	山田正実
臨床看護学領域 成人看護学	助教	飯田智恵
地域生活看護学領域 地域看護学	助教	井上智代
臨床看護学領域 成人看護学	助手	須藤陽子

資料1—どこカレ通信

第7号 2011/04/30

## どこカレ通信

新潟県立看護大学の「どこでもカレッジプロジェクト」では、看護前の学び直しを支援します。公開講座では、看護師の方だけでなく、介護職等の医療福祉専門職の方や関心をお持ちの一般のご参加もお待ちしております。

### ご案内

- 今年も「どこカレ」を宜しくお願い致します。多くのメイトさんのご参加をお待ちしております。今後の予定は、交流センター事業案内パンフレット、どこカレホームページ等でご案内いたします。
- どこカレ通信6号(2011年2月発行)でご案内したとおり、好評をいただきおりましたどこカレの事業としての「大学の授業公開」は昨年度で終了となりました(裏面を参照)。大学の講義を受講したいという方のために、「聴講生」と「科目等履修生」という制度がございますので、今後はそちらをご活用いただければ幸いです。詳しくは、大学事務局教務係(☎025-526-2811)までお問い合わせ下さい。
- 現在、聴講生として2名、科目等履修生として1名の方が大学の授業に通っておられます。

※ バーチャルカレッジ・公開講座・病院実習は今まで通りです。ぜひご参加下さい。

編集後記:初々しい新入生を迎え、1年の中で大学が最もにぎやかな時がやってきました。公開講座も順次開講されますので、みなさまにお会いできることを楽しみにしています。  
(大学教員:飯田・須藤)

東日本大震災により被災されたみなさまに対し、心よりお見舞い申し上げます。新しい年度を迎えるに温かくなっていますが、急に冷え込むこともあります。風邪をひかないよう、皆さま体調管理にご留意下さい。

### 今後の公開講座情報(会場:本学)

☆ どこカレ公開講座  
(看護・医療の専門職者向けの講座です)

6月18日(土) 13:00~15:00  
テーマ:「患者の立場からみた 医療者の言葉の使い方」  
講師:佐伯 晴子 氏(東京SP研究会代表)  
… 忙しい医療現場では患者さんやご家族は「話を聞いてもらえない、正しく理解してもらえない。説明がわかりにくい」と感じることがあります。どうすればコミュニケーションで信頼を高めることができるのか、患者や一般市民の立場から「話が通じる」ために必要なことを考えます。

どちらもメイト登録されていない方でも参加できます。皆さまお問い合わせのうえ、ぜひご参加ください。メイト登録も随時受け付けています。



「看護研究交流センター」の事務員が変わりました。星野・吉田が担当いたします。不慣れな点もございますが、よろしくお願いいたします。何かご不明なことがございましたら、下記の連絡先にお願いします。

連絡先: 新潟県立看護大学 看護研究交流センター(事務員: 星野・吉田 / 受付時間: 平日 9:30~16:00)  
〒943-0147 上越市新南町240 電話: 025-526-2822(直通・FAX兼)  
Eメール: dokokare@niigata-u.ac.jp ホームページ: <http://dokokare.niigata-u.ac.jp/>



梅雨に入ると、おひさまが待ち遠しいですね。梅雨の晴れ間は、雨で大気の汚れが洗われ、空気が澄んでいるといわれます。今年は、節電の影響で街の照明も落とされています。忙しいひと時、ゆっくり星空を眺めるいい機会になりそうです☆

今後の公開講座
<b>★どこかれ公開講座</b>
① 9月13日(火)、9月14日(水) 「看護情報処理セミナー」 新潟県立看護大学 教授 橋本明浩 助教 永吉雅人 日常生活の中で利用する看護情報をより効率的に処理することを目的として、苦難の程度に応じて学習できるようにプログラムしました。
② 9月20日(火)、9月21日(水) 「院内研究発表入門 —研究発表を効果的に行うために—」 新潟県立看護大学 教授 橋本明浩 助教 永吉雅人 *わかる発表、ためになる発表 院内の研究発表をテーマとして、パソコンを活用した発表をより効率的に行うことの目的に学習できるようにプログラムしました。 ①、②は、事前学習は不要です。また、レベルは初級から中級を想定していますが、初心者の方も大歓迎です。各講座とも定員は11名で、全日程参加可能な方が優先されます。 ③ 9月17日(土) 「高齢者のエンド・オブ・ライフケア」 青梅慶友病院・よみうりランド慶友病院 看護介護開発室長 老人専門看護師 桑田 美代子 老人専門看護師の立場からみてきた多くの「老い」と「死」と「生」に関する話題から、今後の高齢者ケアへのヒントを探ります。

近況報告
6月18日(土)「患者の立場から見た医療者の言葉の使い方」(講師:東京SP研究会 代表 佐伯晴子氏)の公開講座に99名のご参加がありました。ありがとうございました。 講義やロールプレイ、模擬患者との医療面接場面の実演を通して、受講生の方から「普段のコミュニケーション技術と患者が理解できる説明の工夫について考えさせられた」、「話を聞く姿勢、困った時の仕草など普段気づけないことを認識した」などの感想が寄せられました。



おしらせ
・新潟県立看護大学大学院では、平成24年度の看護学研究科看護学専攻(修士課程)の学生を募集しています。 お問い合わせは、新潟県立看護大学 教務学生課 教務係までお願いします。

編集後記
銀色の太陽が乾いたアスファルトに濃い影を落としています。まだ6月だというのに真夏のような暑さですね。“節電熱中症”にならないよう、早めの休憩と水分・塩分補給を欠かさず、この夏を乗り切りましょう！(星野)

連絡先: 新潟県立看護大学 看護研究交流センター (事務員: 吉田・星野)

Tel & Fax: 025-526-2822 (平日 9:30~16:00)

E-mail: dokokare@niigata-cn.ac.jp

ホームページ: <http://dokokare.nirin.jp/>



第9号 2011.8.1

## どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター  
「どこでもカレッジプロジェクト」では  
看護師の学び直しを支援します。

今年は梅雨明けも早く、暑い日が長く続き  
そうです。供給電力不足が懸念されている  
ので、本当に必要なものに電力を  
回せるよう協力したいですね。  
熱中症対策を万全に、賢く節電  
し、適度にエアコンも使いなが  
ら夏を乗り切りましょう！



### 今後のどこカレ公開講座

#### ①「高齢者のエンド・オブ・ライフケア」

9月 17日 (土) 13:00-15:00

青梅慶友病院・よみうりランド慶友病院  
看護介護開発室長

老人専門看護師 桑田 美代子 氏

老人専門看護師の立場か  
ら見てきた多くの「老い」  
「死」「生」に関する話題  
から、今後の高齢者ケアへの  
ヒントを探ります。



#### ②「看護情報処理セミナー」

9月 13日 (火)-14日 (水) 10:00-16:10

#### ③「院内研究発表入門 -研究発表を効果的に-」

9月 20日 (火)-21日 (水) 10:00-16:10

日常生活の中で利用する看護情報の処理、院内の研究発表をテーマとしてPCを活用した発表について、より効率的に行うコツを学習します。

新潟県立看護大学

教授 橋本 明浩 助教 永吉雅人

※ ②、③ともに定員まで残り若干名となっております。全日程参加可能な方が優先されます。初級から中級レベルを想定していますが、初心者の方も大歓迎です。

#### ④「フィジカル・アセスメント 講義・演習」

(呼吸器／循環器)

10月 1日 (土) 10:00-15:30

新潟県立看護大学 医系・看護系教員、ほか

呼吸・循環器系のフィジカルアセスメントの技術アップを目指します。摂食・嚥下障害、肺炎予防に関連した身体の構造と機能、病態生理を講義で再確認し、演習では、①呼吸・嚥嚥、②嚥下機能に焦点を当てたアセスメントを学習します。

#### ⑤「フィジカル・アセスメント 講義・演習」

(消化器／運動器)

10月 29日 (土) 10:00-15:30

新潟県立看護大学 医系・看護系教員

腹部・運動器系のフィジカルアセスメントの技術アップを目指します。転倒予防や筋力低下、便秘や排便障害に関連した身体の構造と機能、病態生理を講義で再確認し、演習では、①運動機能、②便秘や下痢に焦点を当てたアセスメントを学習します。

※ ④、⑤のどちらか一方の参加も  
歓迎致します。両日に参加を希望される方は、忘れずにその旨  
お申し付け下さい。  
申し込み者多数の場合には、先  
着順とさせていただきます。



### おしらせ

- 新潟県立看護大学大学院 看護学研究科 平成24年度の大学院生（修士課程）を募集しています。
- 新潟県立看護大学 看護学部看護学科 平成24年度入学者選抜要項が公表されました。
- 8/3(水)、8/23(火)にオープンキャンパスが開催されます。施設見学の他、体験学習（模擬授業・演習）や進学相談もありますので、この機会に本学の様子をご覧下さい。
- いずれも詳細については、大学HP (<http://www.niigata-cn.ac.jp/>) をご覧になるか、大学事務局教務係（025-526-2811）までお問い合わせください。

連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター（事務員：星野・吉田／受付時間：平日9:30~16:00）

〒943-0147 上越市新南町240 電話：025-526-2822（直通・FAX兼）

Eメール：[dokokare@niigata-cn.ac.jp](mailto:dokokare@niigata-cn.ac.jp) ホームページ：<http://dokokare.niigata.ac.jp/>

第10号 2011 10/20  
どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター  
「どこでもカレッジプロジェクト」では  
看護師の学び直しを支援します。

朝晩めっきり寒くなりましたが、いかがお過ごしでしょうか？ お店の軒先には、秋の味覚もだいぶそろい始めました。食欲の秋到来です。旬の食べ物をおいしくいただける感謝をかみしめつつ、元気に過ごしたいものです♪

近況報告

9月に入り、どこカレ公開講座が4回開催されました。多数のご参加ありがとうございました。各回とも内容が充実し、大盛況のうちに終了しました。下記の感想が寄せられました。

★ 9月13日（火）、14（水）

「看護情報処理セミナー」

講師：本学 教授 橋本明浩、助教 永吉雅人

- ・パソコンの裏技を知ることができた気がします。現場を離れてとても有意義な時間を過ごすことができた。

★ 9月17日（土）

「高齢者のエンド・オブ・ライフケア」

講師：青梅慶友病院 看護介護開発室長 桑田美代子氏

- ・「老人看護とは“あいまいの中でいかに立っていられるか”だとと思う」という言葉が印象的でしたし、老人看護に携わる者として力をもらいました。

★ 9月20日（火）、21日（水）

「院内研究発表入門」

講師：本学 教授 橋本明浩、助教 永吉雅人

- ・パワーポイントの資料作りで必要なこと、ダメなことが聞けて良かった。今度作る時に参考しながらやってみたいと思った。

★ 10月1日（土）

「フィジカルアセスメント - 呼吸・循環系」

講師：はやつクリニック内科呼吸科 院長 早津邦広氏

本学 准教授 原等子、講師 山田正実、他本学教員

- ・臨床の場で丁寧な聴診が重要であることを改めて実感しました。
- ・喉頭蓋がどのようなしきみで蓋をするのか分かり、摂取されるとゴロゴロされるのが分かって、(解剖学的) 食事介助ができるです。



今後のどこカレ公開講座

10月29日（土）

「フィジカルアセスメント  
- 腹部・運動系」

講師：本学 教授 中野正春

准教授 原等子

助教 飯田智恵

他本学教員

新規教材のおしらせ

6月18日に開催された公開講座

「患者の立場から見た医療者の言葉の使い方」  
(講師：東京SP研究会 代表 佐伯晴子氏) が  
バーチャルコンテンツ化されました。Web を  
利用して、講座を学習することができます。

再就職をお考えの方へ

潜在看護師の方の再就職支援の一環として  
「病院実務実習」があります。病院での看護業務の見学並びに実際に看護技術を体験することで、知識・技術の再習得を図り、再就職にむけての自信をつけていただくことを目的にしています。

<実習ご希望の方は>

11月末までに看護研究交流センターへ、  
ご連絡下さいますよう宣しくお願い致します。



連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター（事務員：星野・吉田／受付時間：平日9:30～16:00）

〒943-0147 上越市新南町240 電話：025-526-2822（直通・FAX兼）

Eメール：dokokare@niigata-cnac.jp ホームページ：<http://dokokare.niin.jp/>

資料2 一公開講座「患者の立場から見た医療者の言葉の使い方」案内

**新潟県立看護大学 看護研究交流センター 看護職学習支援部門**

**「どこでもカレッジ」～公開講座～**

**患者の立場から見た  
医療者の言葉の使い方**

※申し込み締切 6月11日（金）

**日時 2011年6月18日（土） 13:00～15:00**

**場所 新潟県立看護大学 第2ホール**  
(上越市新南町240番地 県立中央病院となり)

\*受講料無料

コミュニケーションに対する能力を重視した教育が始まっています。その代表としてOSCE（オスキーと読みます・客観的臨床能力試験）という医学部医学部4～5年学年向けの試験が全国で導入され、また、看護を含めた医療職全体でも患者さんとのコミュニケーションを改善するための演習が増えています。

その練習の相手をつとめる患者役が模擬患者（Simulated Patient またはStandardized Patientを略してSP）です。

このSPの日本での第一人者が東京SP研究会代表佐伯晴子先生です。佐伯先生から概念の講義の他、実習を行い「患者の立場から見た医療者の言葉の使い方」を習得します。

受講希望については、看護職の方を優先しますが、医療福祉関係者からの参加も歓迎します。

**<会場までの地図>**

高田駅前案内所または本町4丁目から  
「中央病院行きバス」または  
「上牧・宇津の保行きバス」に乗車  
(所要時間13分)、看護大学下車

**講師紹介**  
**東京SP研究会**  
**佐伯 晴子**

講師紹介  
東京SP研究会 代表。1995年にいち早く東京SP（模擬患者）研究会を設立。2000年から弘前大学医学部、北里大学医学部常勤講師、2001年から東京慈恵会医科大学。2002年から群馬大学非常勤講師、昭和大学客員講師、東邦大学客員講師、2004年から東京医科歯科大学非常勤講師。全国自治体病院協議会、国民健康保険診療所協議会共催の新医師研修指導医講習会講師。2002年から厚生労働省医薬食品安全対策医療用具部会委員。2003年から日本医学教育学会理事。(著者紹介から)

著書  
・あなたの患者になりたい—患者の視点で語る医療コミュニケーション(2004、医学書院)  
・行動目標達成のための「医療面接」ポイント50(日本医療企画)  
・話せる医療者—シミュレイテッド・ペイントンに聞く(医学書院) 等多数

**申し込み・問い合わせ先**  
※締切 6月11日（金）  
**新潟県立看護大学**  
**看護研究交流センター**  
TEL/FAX 025-526-2822  
受付時間 平日9:00～16:00  
時間外 代表025-526-2811

資料3-公開講座「高齢者のエンド・オブ・ライフケア」案内



新潟県立看護大学 看護研究交流センター 看護職学習支援部門

公開講座

# 高齢者のエンド・オブ・ライフケア

日時 9月17日（土） 13:00～15:00

場所 新潟県立看護大学 第1・2ホール

(上越市新南町240番地 県立中央病院となり)

※申し込み締め切り 9月9日（金）

参加費無料

看護職の方に限らず、保健・医療・福祉職の方、  
また、一般の方のご参加もお待ちしております。



日本はの世界に先駆けた超高齢社会です。この超高齢社会において高齢者の生活の質をいかに向上できるかが私たちの課題です。高齢者が健やかに生き、そして幸せな死を迎えることができること、それは私たちの未来の希望につながります。どのように人生の終末期「エンド・オブ・ライフケア」を「生きるか」、理想的な終末期とはどのようなものなのか。

今回は、日本の高齢者医療をリードする老人看護専門看護師の桑田先生をお招きします。是非、一緒に考えてみませんか？

講師 青梅慶友病院・よみうりランド慶友病院 看護介護開発室長

桑田 美代子 氏 老人看護専門看護師



高田駅案内所または本町4丁目から「中央病院行きバス」または「上牧・宇津の俣行きバス」に乗車（所要時間13分）看護大学下車。

<お申し込み・お問い合わせ先>

新潟県立看護大学 看護研究交流センター

電話・FAX 025-526-2822 (平日 9:00～16:00)

E-mail dokokare@niigata-cn.ac.jp



資料4－バーチャルカレッジ

The screenshot shows a Moodle course page titled "高齢者の呼吸器疾患のアセスメントとケアの視点". The main content area displays a video thumbnail of a lecture introduction by Dr. Toshihiro Hayashi. The video player shows a timestamp of 0:47 and a file size of 1.7MB. The sidebar includes links for "ニュースフォーラム" and "ファイル一覧". The right sidebar features navigation, settings, and search functions, along with sections for "最新ニュース", "直近イベント", and "最近の活動".

The screenshot shows a Moodle course page titled "転倒予防と筋力トレーニング". The main content area displays a video thumbnail of a lecture introduction by Professor Naoko Nakano. The video player shows a timestamp of 0:01 and a file size of 1.7MB. The sidebar includes links for "ニュースフォーラム" and "動画の置き場所". The right sidebar features navigation, settings, and search functions, along with sections for "最新ニュース", "直近イベント", and "最近の活動".

## 地域課題研究開発部門

石田和子, 坪倉繁美, 高柳智子, 藤川あや, 岡村典子

新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

### I. 活動概要

#### 1. 上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で、新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催され、156名の参加者であった。平成23年度は第1・第2ホールにて行われ、示説発表を行わず口頭発表とした。

平成22年度に引き続き上越地域の各病院や地域に所属する看護職員が臨床の場で取り組んできた研究発表に対して活発な意見や質問がされ「上越地域の看護の実践を知ろう」というテーマの目的を達成することができた。

##### 1) 発表プログラム

日時：平成23年10月11日（火） 場所：新潟県立看護大学（第1ホール）

###### (1) 第1群（口演） 座長 中島美鈴（新潟県立柿崎病院）

① 腰椎術後患者の排便に対する腹部温罨法の効果

高橋久美子（新潟労災病院）

② 呼吸器装着ALS患者の外出への取り組み

望月友美（県立妙高病院）

③ 外来がん化学療法を受ける患者への栄養状態の改善をめざして

野口みゆき（上越地域医療センター病院）

④ サイレントアスピレーションによる発熱を繰り返す患者への看護介入

～口腔ケアからアプローチを試みて～

石田淳子（けいなん総合病院）

⑤ 高齢者の内服自己管理を試みて

村山理恵（上越総合病院）

###### (2) 第2群（口演） 座長 藤川あや（新潟県立看護大学）

⑥ 呼吸教室参加者の健康関連QOLの変化に関する調査

～在宅酸素療法患者の活動及び心理面への支援に焦点をあてて～

藤巻ゆかり（県立中央病院）

⑦ 慢性呼吸不全患者友の会“まつかぜ友の会”立ち上げ報告

福井恵理子（県立柿崎病院）

⑧ 上越管内における結核発生動向の現状と課題

富井美穂（上越地域振興局健康福祉環境部）

###### (3) 第3群（口演） 座長 松浦富士子（独立行政法人国立病院機構さいがた病院）

⑨ アルコール依存症治療の取り組みと近年の動向

諏訪貞徳（三交病院）

- ⑩ 「一人暮らしがしたい」と希望したA氏の事例  
～退院促進事業を利用して～  
武田百合（高田西城病院）
- ⑪ 精神科患者の暴力が看護者に及ぼす精神的影響と対処行動について  
金田廣子（川室記念病院）
- ⑫ 医療観察法病棟に対する看護職のイメージ  
～SD法を使用した調査結果より～  
内藤奈美子（さいがた病院）

## 2) 上越地域看護研究発表会実行委員会の活動

上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究開発部門（以下大学とする）が実施主体となり、上越地域の病院、保健所、市役所等の看護職員による実行委員会を編成、運営した。企画実行委員会は、4回（反省会、次年度計画を含む）開催し（平成23年7月6日、9月7日、10月31日、12月13日）看護研究発表会実施に向けて、各病院・市町村などの状況を考慮して、テーマや演題募集について検討を重ねた。

### 【平成23年度上越地域看護研究発表会第1回実行委員会】

#### (1) 第1回実行委員会：平成23年7月6日（水）

##### 議題：看護研究発表会の企画について

目的は昨年同様に「看護研究の共有と看護ネットワークを強化し看護の質の向上と地域ケア体制の向上を図る」とし、福祉施設などの看護職員に対して発表会への参加を推奨することを今年度は追加した。その中で大学の役割として、研究をまとめる際のサポートと必要時に他の大学教員をつなぐことが挙げられた。テーマは、昨年同様に、「上越地域の看護の実践を知ろう」に決定した。

実施日時、演題募集などの日程は、10月中旬の平日とし看護大学会場の空き状況により決めることとした。平成23年10月11日18時30分からに決定した。演題募集締め切りは、平成23年9月2日とした。応募演題数については制限せず、発表時間、質疑応答の時間を調整することで応募者全員が口演発表することとした。上越地域看護研究発表会演題募集要項を作成した。抄録規定として「A4 1枚」、「字数」、「ポイント数」を明記することとした。倫理的配慮については、新潟県看護協会の倫理規定を募集要項とともに配布することとした。研究報告だけでなく、実践報告の発表も募集することとした。

#### (2) 第2回実行委員会：平成23年9月7日（水）

##### 議題：看護研究発表会の実施について

プログラム編成は、12演題が提出され1群成人看護3題、老年看護2題、2群地域看護3題、3群精神看護3題の構成となった。発表形式は、発表時間6分とし群ごとに質疑時間10分を設けることとした。休憩時間は1群の後に10分間とした。司会、座長を決めた。発表会当日の役割は、昨年の資料、実施をもとに委員の集合時間は17時30分とし座長との打ち合

わせは 18 時からとした。また、当日の委員の役割分担を行った。

抄録査読については、当大学の部門委員で内容を確認し保健所へ返し、保健所から発表者へ修正依頼をすることが確認された。倫理的配慮を中心に査読を行い抄録の作成を進めた。大学の役割はプログラム・掲示物等・必要物品の準備をすることを決定した。保健所の役割はポスター作製・実行委員会の役割分担表作成、当日派遣依頼公文書の作成と発送に決定し、上越地域看護研究発表会開催に向けて大学と保健所で協力して準備を進めるための検討を重ねた。

### (3) 第 3 回実行委員会：平成 23 年 10 月 31 日（月）

議題：看護研究発表会の反省・評価

#### ① アンケート結果（資料あり）

アンケートの結果について、説明があった。その中で、広報について「福祉関係にはメールや FAX での連絡のみだった。また、病院関係に関しては、看護部長宛てに発表会のチラシを送ったが、広報の方法に関しては伝えていなかったので、もう少し積極的に動けばよかつたと反省している」との報告があった。

#### ② 発表内容

発表内容に関して、「ケアの改善に役立てていきたい」との意見がある一方で、「研究として意義ある内容を」との意見もあった。このことに関して、幾つか意見が交わされた。「この発表会の趣旨は、実践内容の発表であることから、それを表題等で謳った方がいいのではないか」、また「今後は、倫理的配慮など抄録執筆時の留意点などを盛り込んでいった方がいい」との意見があった。「各施設では、この発表会でエントリーした研究に対して、事前にどう対応しているのか」といった質問に対して、実行委員から「院内発表したものに、担当病棟の師長や看護部長が確認・指導したのちに応募している」、「院外で発表したもの、あるいはする予定のものを発表用にまとめて応募している」との発言があった。

#### ③ 抄録について

書式が統一されていないことに関して意見が出され、今後は統一していくこととなった。また、発表時間が限られるため、抄録の枚数を増やし内容を盛り込めるようにしたらどうかとの意見があったが、各施設の院内発表では抄録を一枚にしていることから、「更なる手直しが必要となり発表者の負担になる」との意見があり、従来通り一枚で継続することになった。

#### ④ 発表者からの意見

発表者から、「発表前に、該当のパワーポイントを表示してくれるなど操作する担当者がいるとよかったです」、「パワーポイントの枚数制限があったが、もう少し増やせるといい」といった意見があったことが、実行委員から伝えられた。

#### ⑤ 発表時間について

質疑応答の時間が短く、もっと発表者の取り組みを聞きたかったとの意見が参加者からあったことが、実行委員から伝えられた。発表時間等も含め、来年度の開催について続いて検討が行われた。

(4) 第4回実行委員会：平成23年12月13日（火）

議題：来年度の看護研究発表会

① 表会の企画・内容について

〈会場・演題募集〉

- ・アンケートの結果「発表時間が短い」という意見が多くあるため、2場で同時に発表を行い、より多くの演題数と発表時間を確保する。
- ・現在は病院中心に演題募集を行っているが、今後訪問看護ステーションや福祉施設の看護職に裾野を広げ演題募集をする必要がある。
- ・参加者を集めるためには、発表演題数を多くすることが必要である。

〈発表内容〉

- ・発表内容について「より研究的な発表を望む」という意見が聞かれたが、当初の目的であった「実践の共有」や、「研究」と限定した時の演題数の減少を考慮すると、現状の実践報告を含む発表内容が妥当である。
- ・発表会を重ねながら、発表内容のレベルアップを図っていく方向で発表会を企画する必要がある。
- ・発表形式（口演・示説）は演題が出された時点で内容から判断することとなった。

② 実施日時について

第1希望：9月29日（土）9時～12時

第2希望：10月13日（土）9時～12時

1) 広報活動

上越地域研究発表会の広報活動は、以下のように実施した。

- (1) 保健所が主体となり、ポスター、チラシ、発表会通知文を作成し上越地域の病院、保健所、市役所、看護大学などに配布した。
- (2) 発表会の様子が上越かわらばんに掲載された。（2011年10月6日号）
- (3) 発表会の様子を新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載した。
- (4) 発表会の様子を新潟県立看護大学広報誌「ポルティコの広場（2011年12月号）」に掲載した。

昨年同様に広報活動を実施し、上越市の病院に研究発表をするように依頼を行い、多くの上越地域の看護職の参加を図って来た。地理的な問題、勤務上の問題などがあり、開催時間などの変更を検討する必要である。次年度は、土曜日の午前中に開催するなど検討を行う。

2. 平成24年度 地域課題研究の申請状況

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に公募した地域の看護実践での研究課題について8件の応募があった。（公募期間：平成23年11月28日（月）～平成24年2月6日（月）17時まで）

〈活動内容〉

1) 公募要領の作成

公募要領、研究計画書、研究計画書記入要領、研究選定基準、研究組織変更届を作成し活用した。

2) 広報活動

新潟県内の保健・医療・福祉関係（約 500 か所）に公募要領を郵送するとともに、新潟県立看護大学看護研究センターHPに掲載し地域課題研究公募の広報活動を実施した。

3) 内定通知の発送

選考委員を選定し、3月下旬に研究代表者へ内定通知を発送する予定である。

### 3. 石川県立看護大学視察

本学看護研究交流センターで行っている地域課題研究事業が、現状の形態で事業を始めてまだ2年目ということもあり、手探りの状態であるため、同じような事業を行っている石川県立看護大学附属地域ケア総合センターを視察した。なお、石川県立看護大学は今年法人化した大学であり、昨年度までは本学と同じように県の施設として運営していた大学である。概要は以下のとおり。

1) 地域ケア総合センターのシステム

人材育成、指導助言、調査研究、国際化促進、施設開放の5つの事業を主に担っている。人材育成事業として公開講座、指導助言事業として検討会や勉強会、国際化促進事業としてJICAの研究委託や研修協力を行っている。平成24年度以降は見直しを検討中。予算は現在700万円ほどの規模で運営している。

2) 調査研究について

地域ケア総合センターの調査研究は、推奨課題をセンター側から提示し、それに関する研究を学内の教員を代表者として募集する。研究代表者は助手でも提示する課題の中には、事前に県の健康福祉部から看護大学へ求める課題を提案してもらい、それを含める。その関係で研究代表者も含めて行政関係者で組織される研究組織もある。助成金額は1件あたり100万円とし、採択数は予算査定の範囲内で決定する。例年、1件あたり30~60万円の要求がある。選定委員会は学長、センター長等大学組織の幹部で構成する。成果発表は6月に中間発表、年度末に成果報告会を開催している。また、調査研究の成果は事業報告書に掲載している。支払いの手順は本学と同じで、研究の主となるものは大学であるため、備品の管理等で特に困ることはないとのこと。

3) 研究相談について

特に行っていないが、県内病院等の依頼に応じて隨時看護研究の指導を行っている。

4) 地域ケアセンター運営協議会等について

教員10名、事務局長から成る運営委員会、専任職員1名（県から出向・事務職員）で構成されている。月1回、センター実施事業の企画・運営に関する協議を行う。

5) その他（看護大から当日質問した事項等）

公開講座の謝礼金は県の予算単価6,200円×時間で支払う。5時間分の3万1千円が上限。

県外から講師を呼ぶ場合は5時間分行ったこととし、3万1千円を支払っている。旅費は別途。

専門職向けの公開講座については看護協会で行っているものもあるため、それとの差別化を目指している。大学独自の知識提供の場として教員を核としたもので進めていきたい。

#### 4. 平成23年度地域課題研究の申請状況

本年度は9件の研究課題の申請がありました。

申請者代表者	所属	研究テーマ
林 八重子	長岡中央訪問看護ステーション	成人期のがん患者の訪問看護利用者に関する調査
清塙 美希	新潟県立津川病院	呼吸ケアに関連した在宅医療機器の介護職の取り扱いに関する実態調査
尾矢 博子	新潟県立中央病院	臨床実習指導者が捉えている学生理解の実態と今後の課題
永石 栄子	仁愛会新潟中央病院	C病院における看護研究における実態調査 ～看護研究の支援体制作りに向けて～
沼 紀子	仁愛会新潟中央病院	看護師の考える看護サービスの特徴
岡崎 園美	新潟厚生連羽茂病院	寝たきりの手指拘縮高齢者に対する茶袋ケア処置の有用性に関する研究
三浦 一二美	新潟厚生連 長岡中央総合病院	外来化学療法を受けている患者の体験している皮膚障害に対するストレスと対処行動に関する研究
古澤 弘美	新潟県立中央病院	県立A病院における在宅酸素療法の実施状況について(導入要因と導入後の指導状況)
小林 創	国立病院機構 さいがた病院	自死遺族が支援を求められるようになる導因

#### II. 平成23年度の評価と今後の展望

上越地域看護研究発表会については、前年同様に実施し、参加者は多く、臨床研究の内容も多岐にわたっていた。発表演題数が多くあり平日の時間外2時間程度の発表会では、ディスカッションが十分に行えず研究を深めることができない。次年度は土曜日午前に開催することを検討している。さらなる保健所と大学の役割に明確化、研究発表会の意義、会場設営、発表時間、発表形式などの課題を明確にし、来年度に反映させていきたい。同時に地域課題研究成果発表会を同日午後に開催し、地域に研究支援を大学が実施していることを周知させていきたい。

地域課題研究については、新潟県内の保健・医療・福祉の看護職から8件の応募があった。課題としては、公募期間(約3か月)あったが短いとの意見が聞かれたことから、来年度は地域の看護職が応募しやすい期間の設定として上越地域課題研究発表会に合わせて公募するなど検討し地域の看護職者の研究の取り組みを発展支援していきたい。

【資料】

上越地域看護研究発表会終了後のアンケート結果

回収数 107 枚 / 参加者数 156 人 回収率 68.6%

1 運営について

1) 会場の広さ

ちょうど良い	もっと広い会場が良い	もう少し狭い会場が良い
92 (86.0%)	0	13 (12.1%)

未記入 2

2) プレゼンテーション機器等の配置について

適切	改善必要
95 (88.8%)	10 (9.3%)

未記入 2

- マイクを持たずに発表できたらよかったです。
- マイクはスタンドにした方がいい。
- 発表者が両手を使えるようマイクスタンドの高さや置く位置を考えてほしい。
- マイクをピンマイクにしたら、発表に集中できるのではないか。
- 前席の人の姿でスクリーンが見にくかった。スクリーンが高いか、座席が高いと良いと思う。
- パワーポイントの扱いに不慣れな人もいるので、スタッフがページを開いて準備し閉じることをするか、事前に方法を教えておくと、もっとスムーズにできるのではないか。
- 後方中央ではスクリーンが見づらい。
- パワーポイントの操作と発表者を別にした方がよいのではないか。

3) 発表会の案内方法

とてもよい	よい	より工夫が必要
17 (15.9%)	79 (73.8%)	3 (2.8%)

未記入 8

- 早めの案内を
- ・ カラーの案内がよい
- ・ より浸透するような PR 必要

2 発表について

1) 発表時間について

適切	改善・工夫が必要
86 (80.4%)	18 (16.8%)

未記入 3

- もう少し長いほうがよい。(8~10分)
- 事前に7分とされていたのが、6分に変更されたが、準備が大変なので変更しないでほしい。
- 決められた発表時間を超過するものがあり、時間配分に考慮が必要。

2) 質疑応答の時間について

適切	改善・工夫が必要
85 (79.4%)	12 (11.2%)

未記入 10

- もう少し時間がほしい。(10~15分)
- まとめての質問だと意見が出にくい。時間内に終わらせたい雰囲気が感じられた。
- もっと意見交換があるとよかったです。
- 研究内容の本質について、友好的に闊達な議論ができるよう期待している。

**3 プログラム全体について**

とてもよい	よい	より工夫が必要
18 (16.8%)	76 (71.0%)	7 (6.5%)

未記入 6

- 今回のように発表数が多いときは示説発表でもよいのではないか。
- 群の分類名を載せて欲しい。
- 実践報告と研究を分けてはいかがか。
- 看護実践発表会とした方が、内容にあっているのではないか。
- 深さがなかった。データも古いものもあり残念だった。
- もう少し早く終わるとよい。

**4 発表内容についての感想**

- 臨床現場での問題をとりあげてあり、興味深く聴いた。
- 事例研究に関して、倫理的配慮について必ず記述してほしいと思う。
- 全体的に見やすいスライドだったが、文字数が多いと目で追いつらい。また、明朝体は見づらい。
- 各々の発表のパワーポイントが、工夫されており、枚数も適正でわかりやすく良かった。
- 研究としては対象事例が少ないことが気になるが、看護ケアの工夫としては参考にできることが多いので、具体的な紹介があると、より参考にできると思う。
- 患者の暴力についての考え方方が病院（精神）によって大きいように思えた。働いている看護者への対応が影響しているのか。
- それぞれの病院でがんばって、実施していることを知ることができてよかったです。
- いろいろな方面的発表があり、今後の研究課題の参考や、業務・ケアの改善につなげられる内容であり役立てていきたい。
- 身近なところでの発表、興味のある内容があり、よかったです。
- 発表と抄録内容の差がありすぎて、なかなか理解するのが難しかった。もう少し解りやすくする工夫が必要かと思った。
- 短時間で充実した内容であり良かった。

- ・ 日ごろの看護の振り返りができ、きちんとまとめられており、興味深い内容だった。
- ・ 非常に興味深い研究や新しい分野の研究が盛り込まれていて良かった。
- ・ とても勉強になった。
- ・ 一般病棟に勤務しているので、精神科に関することができ参考になった。
- ・ 皆様、苦労してまとめている様子がわかる発表だった。
- ・ 研究と言うより、紹介の内容が多かった感がある。
- ・ 対照研究し、要因分析をより深くしていくことが必要。
- ・ 課題が何で、それについてどのように改善したかという内容の発表に期待したい。今の内容では実態のデータをまとめたという程度のものであり、研究に対して質が低いと感じた。とおりいっぺんの報告会では魅力がない。全体にもっと深耕した内容を期待している。

## 5 全体を通して

- ・ 抄録の様式を統一した方がよい。
- ・ 抄録にページまたは番号を記すべき。
- ・ 抄録内容に不備あり。(アンケート数の明示、引用文献の未記載)
- ・ 事前に抄録を配布し、事前に目を通し、意見交換につなげる。
- ・ 各発表に対する質問がないことは残念。質問に答えることで発表内容にないが強く伝えたいことが聴く側もわかる。質疑応答時間はもう少し取ってほしい。
- ・ 発表をスムーズにするために、パワーポイントの立ち上げや、交換を発表者以外の人に行うとよいのでは。
- ・ マイクを持たなくともよいように、マイクスタンド等の調整をしてほしい。
- ・ 1群は発表数が多かったので、群まとめての質疑は効果的にならない。発表毎の質疑とするか、2群程度の2~3の研究でまとめての質疑が限度ではないか。
- ・ 群ごとに前に座っていた方が質問時にすぐに答えられるのではないか。
- ・ 12題を口頭発表は無理があるので。
- ・ 三連休翌日の開催は業務のことを考えると難しかった。1~2日あけたほうが出席者も多かったと思う。
- ・ 発表の時間が短いので簡潔すぎるのでないか。資料も少ない。内容はとてもすばらしく、もっと聞きたい。
- ・ 地域の病院の特長を生かした事例が多く紹介されており、理解が少しでもできることは発表会のテーマにかなっていると感じた。とても興味深く聴くことができた。
- ・ 地域での研究発表会、身近なテーマで参考になった。
- ・ 来年も楽しみにしている。
- ・ 時間が来ると予鈴がなるが、その後の発表者のあせりが見え、発表が聴きづらくなつたように感じた。“チン”は1回でよいのでは。
- ・ 発表者の集合時間が平日18:00であると、日勤だった場合はぎりぎり間に合うかどうかであり、土曜日の午後などに計画してもらうとよい。

- ・ 平日夕方からではなく、土日の日中でもよいのでは.
- ・ このような場が地域に開放されていることはすばらしいと思う。残念ながら病院・医療関係者の範疇であり、井の中の蛙的な状況が否めない。仕事を持つつ、このような研究を行っていることはすばらしい。一般参加者の目からは運営者も含めてもう少し他流試合をして、せっかくの研究を一歩すすめていただきたい。

## 特別研究部門

杉田収，酒井禎子，小林綾子，水口陽子，山田真衣，永吉雅人，城戸裕子，平澤則子  
新潟県立看護大学看護研究交流センター 特別研究部門

はじめに

新潟県立看護大学学長 渡邊 隆

私たちの大学は、2011年5月に創立10周年を迎え、学部卒業生561名、大学院修了生21名を送り出しています。学部は、優秀な看護師、保健師、助産師を育成し、大学院では、看護の臨床場での課題解決につながる研究に取り組んでおり、大学院修了者の中には、専門看護師教育課程（CNS）の修了者6名も含まれております。

看護大学は、学部・大学院のほかに看護研究交流センターが附置しており、このセンターは、大学の地域貢献をめざし、大学の教育・研究の成果を生かした様々な事業展開を行っています。先駆的学習支援部門、地域社会貢献部門、看護職学習支援部門、地域課題研究開発部門、特別研究部門が置かれ、それぞれの部門では公開講座や研究発表会などが行われ、地域社会との深いつながりをもって地域貢献につとめております。

「メディカルグリーンツーリズム」は、特別研究部門で取り組んでいる事業ですが、この事業のきっかけになったのは、2010年1月に上越で行われた移動知事室でした。多忙な知事のスケジュールの中になんとか10分ほどの面会時間をいただき、看護大学の現状や将来展望などをお話ししたところ、知事から「防災グリーンツーリズム」をやれないとわれました。「グリーンツーリズム（GT）」のもともとの意味は、農山村・漁村地域において自然、文化、人々の交流を楽しむ滞在型の余暇活動を行うことです。この余暇活動に「健康と福祉」というkey wordを連携させた企画を提案しました。つまり、都会で生活している人たちが、上越地域の自然に触れ、人々と交流しながら健康な生活と安心できる福祉を考えるきっかけをつくる事業を考え、それをメディカルグリーンツーリズムとして提案したのです。この提案が、平成22年度の県農林水産部のGTとして予算化され活動がはじまりました。事業は、2010年4月から大学内の教職員を中心にはじまり、グリーンツーリズム滞在中に、健康な食事、自然環境の中での心身のリフレッシュなどを行い、自己の健康チェックができるプログラムをつくり、その実行シミュレーションをやることを事業の目的としたのです。そのまとめ役を杉田収特任教授にお願いし、学外からアドバイザーとして水原健二氏にも参加いただきました。翌年には、地域の企業の方々や、上越市、妙高市などの行政サイドの協力を得ることになりました。さらには、2015年開業予定の北陸新幹線の活用と上越地域活性化をめざす企画の一つとしても注目されるようになりました。こうして現在の「メディカルグリーンツーリズム」構想は、センターの特別研究部門に具体的に位置づけられることになり、ここにその2年間の成果をご報告するだいです。

関係各位のご協力にあらためて感謝を申し上げると共に、今後の展望を期待するものです。

## これまでを振り返って

特任教授 杉田 収

### はじめに

平成 22 年 4 月に渡邊学長よりメディカルグリーンツーリズム（メディカル GT）の事業立ち上げの指示を受け、看護研究交流センターに特別研究部門が新たに設けられた。部門長に杉田が任命され、学内教職員 9 名のメンバーで事業を担うことになった。作業は上越地域出身の首都圏在住者で組織されている「ふるさと上越ネットワーク」（J ネット、611 名）会員に対するニーズ調査、及び上越市の介護施設の現状調査（72 施設）から始まり、部門メンバーによる上越地域の資源調査（48ヶ所）を経てメディカル GT のメニュー作りに取り組んだ。

これらの調査の結果、上越地域の資源を生かしたモニターツアーを実施することとし、平成 22 年秋には作成されたツアー 3 案 ①健康チェックコース ②健康改善・リフレッシュコース ③介護準備・学習コースについて予備検証（シミュレーション）を行い、それをもとに平成 23 年 9 月にそれぞれのコースのモニターツアーを実施した。

モニターツアーには首都圏や大阪方面、上越市在住の方々など 22 名の参加者を得て、参加された感想をアンケートで集約し、ツアー内容を評価した。その評価の一部を後述する。詳細は「メディカルグリーンツーリズム報告書」にまとめられ、本学看護研究交流センターに保管されている。

### 1. メディカル GT の組織

事業は新潟県立看護大学の教職員で始められたが、本学以外の委員（外部委員）も平成 23 年 2 月から加わり、総勢 18 名で活動した。平成 23 年度は事業の進展に伴い、学内教員 2 名、学外委員 1 名を加え、さらに上越市との連携の必要性から上越市総合政策部新幹線・交通政策課新幹線まちづくり推進室からの 2 名がオブザーバーで加わり、その後妙高市企画政策課未来プロジェクトグループからの 2 名もオブザーバーで加わり、総勢 25 名になった。また関係する諸事務は看護研究交流センターの大越道子・高山篤子の事務局員（平成 22 年度）、吉田ふとし・星野史の事務局員（平成 23 年度）が担当した。

#### 【大学関係者 13 名】

渡邊 隆学長、粟生田友子看護研究交流センター長、水原健二アドバイザー、杉田 収特任教授（当該部門長）、平澤則子教授、水口陽子准教授、酒井禎子准教授、城戸裕子准教授、永吉雅人助教、山田真衣助教、小林綾子助教、佐々木 稔事務局長、大林賢治係長

#### 【大学以外の関係者（外部委員） 8 名】

金子久司 上越ツーリスト代表取締役、高橋和則 上越市高齢者支援課副課長（平成 22 年度は市川重隆氏）、若山秀樹 上越観光コンベンション協会企画課長、齊京貴子 正善寺食のネットワーク、梅田みどり 料理研究家、遠間和広 温泉ソムリエ家元、敷根俊一 妙高自然アカデミー理事長、内田洋介 ウチダスポーツ

#### 【オブザーバー 4 名】

吉田正典 上越市総合政策部新幹線・交通政策課新幹線まちづくり推進室室長、平原謙一 同主任、高橋正一 妙高市企画政策課未来プロジェクトグループ長、馬場慎太郎 同 スタッフ

## 2. 看護大学の企画らしいメディカルGTをめざして

メディカルGT事業に看護大学の企画らしさをどのように盛り込むかについては、事業立ち上げの最初から議論された。

人間ドック中心の健康チェックコースと、介護施設見学・看護大学で行う介護関連体験を取り入れた介護準備・学習コースは、看護大学の企画らしさを入れることができた。一方健康改善・リフレッシュコースの内容は「運動・温泉・食」であり、森林セラピー基地での運動前後の心身のリラックス度を科学的に測定する提案が出された。この提案に対してリフレッシュのために参加した人に、研究のための「心身の負荷」が許されるものか議論になった。議論の末に、応募者の事前了解を得たうえで、必要最低限の範囲で唾液アミラーゼの活性測定とPOMS(Profile of Mood States)短縮版を用いて心身の状態を調査することになった。従ってデータ量は少ないが、幸いなことにこの測定・調査から興味深い結果が得られた。

また健康チェックコースと健康改善・リフレッシュコースの参加者には「健康パンフレット」の小冊子を、介護準備・学習コース参加者には「食と介護パンフレット」を配布し「お土産」として持ち帰ってもらった。これらのパンフレットは参加者には好評であった。メディカルGT用に作成された各種パンフレットは「メディカルグリーンツーリズム報告書 資料編」に編纂され、モニターツアー評価と共に看護大学看護研究交流センターに保管されている。

## 3. メディカルグリーンツーリズムモニターツアーの実施

ここはモニターツアー実施報告の概略で、各コース担当者の詳細な報告は後に続く。

### 1) 健康チェックコース

#### ①コース内容

新潟労災病院での人間ドック、春日山・謙信公観光、桑取温泉湯ったり村宿泊

#### ②実施日

平成23年9月6日(火)・7日(水)

#### ③参加者概要(募集は10名)

参加者数: 1名

年代・男女別: 60歳代、男性

紹介者: 新潟県立看護大学教員

居住地: 千葉県

#### ④参加者の評価抜粋(数値は人数)

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
人間ドック	1	0	0	0	0
観光	1	0	0	0	0
湯ったり村宿泊	1	0	0	0	0

#### ⑤特記事項

○人間ドックの独自の内容(基本検査を圧縮して料金は半分以下、人間ドック認定医による丁寧な診察と健康講話)を伝えるPR不足があった

○ドック担当の新潟労災病院々長の談話「参加者が0人でも1人でも今後につなげて欲しい」

## 2) 健康改善・リフレッシュコース

### ①コース内容

森林セラピー・ノルディックウォーキング, 温泉ソムリエの講話(赤倉温泉宿泊),  
野菜ソムリエ指導の料理体験(正善寺工房)

### ②実施日

平成23年9月21日(火)・22日(水)

### ③参加者概要(募集は10名)

参加者数: 9名

年代: 60歳代6名, 70歳代1名, 80歳代2名

男女: 男性3名, 女性6名,

紹介: 看護大教員からの紹介8名, 上越タイムスの記事を見た上越市民1名

居住地: 大阪2名, 長野2名, 埼玉・千葉・神戸・仙台・上越の各1名

### ④参加者の評価(数値は人数)

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
森林歩き(不参加1)	5	3	0	0	0
上越野菜料理体験	7	2	0	0	0
温泉ソムリエの話	6	3	0	0	0
宿泊先	3	5	1	0	0
健康パンフレット	7	2	0	0	0

### ⑤特記事項

○宿泊先の要改善意見に「雨の音が大きかった」

○アンケートで参加者9名中7名が再度このコースに参加したいと表明

## 3) 介護準備・学習コース

### ①コース内容

介護施設見学(サンクス高田・自在館, ケアホームあいびす, 癒しの家「池の平」),  
料亭宇喜世・長養館の昼食, 親鸞聖人ゆかりの地巡り観光, 看護大での上越市の  
福祉の現状と「食」の工夫体験

### ②実施日

平成23年9月28日(水)・29日(木)

### ③参加者概要(募集は10名)

参加者数: 12名

年代: 50歳代1名, 60歳代4名, 70歳代7名

男女: 男性2名, 女性10名,

紹介: 看護大教員からの紹介12名

居住地: 東京2名, 妙高3名, 上越7名

## ④参加者の評価抜粋（数値は人数）

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
介護施設見学	9	3	0	0	0
福祉の現状（無記入2）	3	2	3	2	0
食工夫体験（無記入1）	8	3	0	0	0
宇喜世の昼食	12	0	0	0	0
長養館の昼食	12	0	0	0	0
親鸞聖人観光	8	3	0	1	0
宿泊先（赤倉ホテル）	2	6	1	1	2

## ⑤特記事項

- 福祉の現状の話は「自分がお世話になる時は、どうなるのかが分からなかった」
- 親鸞聖人観光は「足が悪いので階段や歩くことが大変だった」
- 宿泊先は「トイレが狭く、また洗浄シャワーが機能しなかった」
- アンケートで参加者12名中6名が再度このコースに参加したいと表明

## 4. メディカルGT事業を通して私たちが学んだこと

上越地域出身者のJネット会員にニーズ調査を実施した。そこでツアー案内容について尋ねたところ以下の回答が得られた。

- |                                  |             |
|----------------------------------|-------------|
| ① 人間ドックなどの健康診断を行う『健康チェック』コース     | 156名(26.0%) |
| ② 温泉やリラクセーションを主とした『リフレッシュ体験』コース  | 125名(20.9%) |
| ③ ウォーキングなどの『健康づくりプログラム』コース       | 114名(19.0%) |
| ④ 高血圧、糖尿病、肥満改善のための『健康改善プログラム』コース | 85名(14.2%)  |
| ⑤ 栄養指導を含む健康な食生活に関する『健康食体験』コース    | 61名(10.2%)  |
| ⑥ 福祉施設の状況などを実際に見聞きする『介護準備』コース    | 58名(9.7%)   |

この回答結果を踏まえて前述のモニターツアー3コースを組み、前述のJネット会員を始め、「表参道・新潟館N'ESPACE」、新潟県と看護大学のホームページでモニターツアーの募集広報を行った。しかし残念ながら応募者は1名も無く、急遽地元上越地域を含む広域募集に切り替えた。この募集結果から首都圏を対象とした広報には大いに限界を感じた。しかしJネット会員に対するニーズ調査からは、看護大学として考えねばならない幾つかの重要な知見が得られた。①既に1人暮らしの方が12%存在する ②上越へ年に1度以上来る人は72%である ③自分の健康に94%の人は関心がある ④会員の21%には上越に親がいる ⑤その親の81%が80歳以上である ⑥上越の親の介護は、親も子も上越を希望しているなどであった。

上越市の高齢者用施設に対するアンケートによる調査は、主に「介護準備学習コース」のために行ったものであるが、他の有用情報として「貴施設・ホームの現在の入居状況は満室、或いはほぼ満室ですか」の回答は「はい45施設」「いいえ4施設」であった。また「満室、或いはほぼ満室の場合、新たな入居者の受け入れは例年どの程度ですか」の問には「1年

間に 1~3 名 22 施設, 4~6 名 6 施設, 10~20 名 10 施設, それ以上 6 施設」の回答であった。さらに入居費用について「貴施設の必要入居費用は月平均（及び居室タイプの料金幅は）どの程度でしょうか」との問には ①特養：減免措置があり 0 円／月の方もいるが、月平均 4.2 万円から 14 万円 ②保健施設：介護度別費用であるが 10 万円から 17 万円 ③ケアハウス：7.5 万円から 16 万円 ④グループホーム：8.3 万円から 16 万円 ⑤（介護付）有料老人ホーム：15 万円から 21 万円（入居一時金上乗せは別）の回答であった。

上越地域の資源調査とコースシミュレーション、さらにモニターツアーを通して以下のことを学ぶことができた。

- 上越市の大切な観光資源として、謙信（春日山・林泉寺）と親鸞（居多神社・五智国分寺・国府別院・淨興寺・ゑしんの里）が確認できたこと
  - 上越市の観光施設には階段があり足腰の弱った高齢者には歓迎されないこと、同様に車椅子使用者が宿泊できる施設は極めて限られていることが実感できたこと
  - 上越地域を支える観光ガイドを含む多くの観光関係者、温泉ソムリエ、野菜ソムリエ、森林セラピストなどの存在を知り得たこと
  - 低価格で自分に合った人間ドックと人間ドック認定医の存在を知ったこと
  - 高級料亭での高齢者対応膳の試食から、これからの中の食のあり方が考えられたこと
  - 心身のリラックス程度を測定する手段として、POMS 調査と唾液アミラーゼの活性測定が有用であること
- 私たちが学んだ事は、まだ部分的で浅いものであるが、これを機会に今後の看護大学の地域貢献、或いは看護研究につなげていけるものと考える。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー  
健康チェックコース実施報告

酒井禎子、小林綾子

I. はじめに

メディカルの要素と上越地域の資源を組み合わせた健康チェックコースのコンセプトは、人間ドックを主目的としながらも、「人間ドックに『温泉旅行』を兼ねて、ゆったりすごしていただくこと」、そして「個人のニーズに柔軟にあわせた『○○さんのための人間ドック』を提供すること」とした。

平成23年9月5日（月）～6日（火）および6日（火）～7日（水）の1泊2日の2コースを設定して参加者を募集した結果、9月6日（火）～7日（水）のコースのみ1名の参加希望者があり、モニターツアーを実施した。

II. 参加者概要

参加者は、看護大学教員から紹介された、千葉県在住の60代男性1名であった。

III. スケジュール

1泊2日のスケジュールの概要は表1のとおりであった。

表1 健康チェックコース スケジュール

1日目		2日目	
時間	スケジュール	時間	スケジュール
11:42	直江津駅集合	7:45	宿泊先出発（朝食なし）
12:00～13:00	富寿司で昼食	8:20～	新潟労災病院到着 人間ドック開始
13:35～15:00	春日山城跡見学	11:50 12:00～12:30	人間ドック終了 昼食・健康講座
15:05～15:40	埋蔵文化財センター 「謙信公と春日山城展」見学	12:30	健康パンフレット贈呈 アンケート記載
16:10	くわどり湯ったり村到着	13:00	終了

1日目は、直江津駅到着後富寿司で昼食、その後埋蔵文化財センターで観光ボランティアと合流し、春日山城跡を85分程度見学した。再び埋蔵文化財センターに戻り、開催中の「謙信公と春日山城展」を休憩やショッピングを兼ねて35分程度見学、16:10に宿泊場所であるくわどり湯ったり村に到着した。

2日目のプログラムは、8:20より新潟労災病院での人間ドックを開始し、昼食時間にはさんで健康講座を実施した。当初は、その後参加者の希望に応じてオプション検査を行い、終了した参加者から隨時解散とする予定であった。しかし、参加者が選択した検査項目では午

前半で人間ドックが終了したため、昼食と健康講座の後、担当者からの健康パンフレット贈呈を経て 13:00 にツアーが終了となった。

#### IV. ツアーの概要

天気は晴れ、気温 26°C 程度であった。移動手段はタクシーを使用した。

##### 1. 1日目

###### 1) 富寿司での昼食

和室個室にて食事をし、メニューは「地魚にぎりランチ」であった。寿司ネタの説明がメニューについており、それらを見ながら地元の味を楽しんでいただいた。

###### 2) 春日山城跡見学（図 1, 2）

春日山城跡では、途中までタクシーにてあがり、その後は徒歩での散策を行った。観光ボランティアの丁寧な説明を聴きながら全体をまわり、予定より 25 分延長し計 85 分の散策となった。山道が多く、普段歩きなれていない人や高齢者にはややきつい行程であると思われたが、参加者は普段歩きなれているとのことであり、特に苦痛は感じなかつたとの感想であった。参加者アンケートの「ツアーに参加してよかったです」との自由記述においても、『春日山に登れたこと』との回答があり、県外者には喜ばれる観光場所であったと思われる。



図 1 春日山城跡での見学（1）



図 2 春日山城跡での見学（2）

###### 3) 「謙信公と春日山城展」見学（図 3）

「謙信公と春日山城展」は、上杉謙信や春日山城に関する展示が充実し、クイズや着物を着ての写真撮影などが楽しめる場所であった。なお、11月 27 日（日）で展示は終了している。

###### 4) くわどり湯ったり村（図 4）

宿泊場所であるくわどり湯ったり村は、上越市内で比較的新潟労災病院の近くに位置する温泉施設であること、周囲は自然にあふれる環境で、人間ドックの前日にリラックスしてすごせる場所であることなどを考慮し、選択した。部屋・浴室ともに清潔で過ごしやすく、露

天風呂も楽しめる。夕食は地元の食材を生かした会席料理であった。参加者アンケートでも、宿泊場所は「満足」であるとの回答であった。

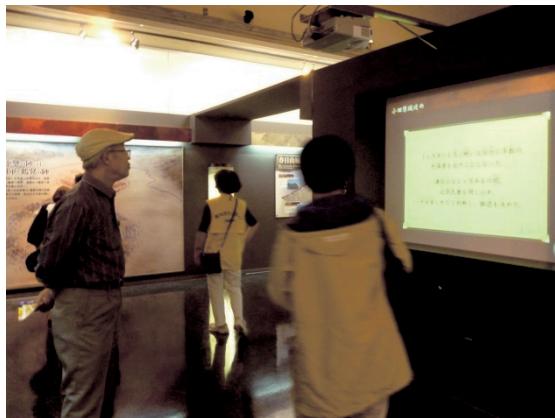


図3 「謙信公と春日山城展」見学



図4 くわどり湯ったり村での夕食

## 2. 2日目

### 1) 新潟労災病院での人間ドック（図5, 図6）

今回、個人のニーズにあわせた人間ドックのコンセプトを実現するため、新潟労災病院の関係者の皆様のご協力を得て、個人の希望にあわせて柔軟に項目を選びながら安価で人間ドックが行えるようプランを設定した。参加者は、血液検査や身体計測、血圧や心電図などの生理検査、胸部レントゲンや腹部超音波などを含む基本検査の他、希望に応じて10項目のオプション検査を選んで検査を行うことができる。どのようなニーズをもつ人がどのような検査項目を選ぶとよいのかがわかりやすいよう、オプション検査を「がん検診コース」「脳血管コース」「肥満コース」の3つに分けて提示した。

人間ドックには一般受診者も含まれていたが、検査の待ち時間はほとんどなくスムーズにまわることができたと参加者に好評であった。11時から行われた最終診察では、人間ドック認定医である松原要一院長の診察を受け、30分間もの時間をかけ、ゆっくりと検査結果の説明や生活指導が行われた。



図5 人間ドックでの検査



図6 松原院長による検査結果の説明

## 2) 健康講座（図7）

健康講座は、今回は1名の参加者であったこと、また最終診察で松原院長より丁寧な生活指導が行われたこともあり、院内食堂にて昼食を食べながら30分程度の懇談となった。参加者には、松原院長が作成した健康に関する資料も提供された。このように、新潟労災病院では、人間ドック・健康講座とも参加者の個別性を尊重したプログラムとなるよう配慮され、参加者アンケートでも満足が得られていた。



図7 昼食を食べながらの健康講座

## 3) 健康パンフレット

最後に、参加者には健康パンフレットを贈呈した。健康チェックコースの健康パンフレットは、「検査結果が気になるときに」「生活習慣に関連の深い主な病気について」の2部構成とした。「検査結果が気になるときに」では、血糖に関する検査値が高いとき、血圧が高いとき、など、人間ドックの結果を見ながら、参加者自身が今後どのように生活を心がけたらよいのかがわかるような内容で構成した。「生活習慣に関連の深い主な病気について」では、これらの検査結果と関連が深い生活習慣病について、病気の特徴、症状、診断のための主な検査、そして治療に関する説明を加えた。また、健康改善・リフレッシュコース用の食事・運動・ストレスに関するパンフレットをこの後に加え、より健康的な生活を行うための工夫について理解が得られるような内容とした。

## V. おわりに

参加者アンケートでは、1泊2日の日程の中で『ゆったりすごすことができた』との回答があり、全体として十分余裕をもった時間的スケジュールであったと思われる。

ただし、健康チェックコースに再度参加したいと思うかとの問い合わせに対する回答は『何ともいえない』のことであり、『人間ドックだけで遠方から人を呼ぶことは厳しいのではないか。健康改善リフレッシュコースのようなものを発展させていったらどうか』との意見があった。参加申し込みが1名にとどまったこともあわせて、今後のツアーワークの展開について課題となつた。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー  
健康改善・リフレッシュコース介護準備・学習コース実施報告

水口陽子, 山田真衣

### I. はじめに

健康改善・リフレッシュコースは、「上越・妙高の自然環境を活かした心身リフレッシュと健康的な生活作りのためのプラン」として、地元の健康作りのエキスパートの力を活かしたコースとして設計した。アピールポイントは次の3つで、運動と温泉、調理体験を主軸とした。

1. 森林セラピーロードにおける森林セラピストの案内による散策、あるいは指導者によるノルディックウォーキングなどの体験により、豊かな自然環境の中で、癒しやリフレッシュの運動体験ができること。
2. 上越野菜などの地元の食材を活かした調理体験をして、健康作りの基本となる「食」について関心が持てるここと。
3. 温泉ソムリエのいる遠間旅館にて、温泉講座で知識を深めながら、赤倉温泉100%源泉掛け流しの湯でゆったりと過ごすことができること。

そして、参加者を募った後、モニターツアーを平成23年9月21日(水)から22日(木)まで実施した。ここではその概要を報告する。

### II. 参加者概要

参加者は、60歳代6名、70歳代1名、80歳代2名の合計9名であった。男女別では、男性3名、女性6名で、居住地は、大阪2名、長野2名、埼玉・千葉・神戸・仙台・上越の各1名であった。

### III. ツアー実施概要

#### 1. 1日目

##### 1) 集合から昼食(図1、図2)

予定時間にJR直江津駅南口に全員集合10時30分に出発した。マイクロバスで笹ヶ峰に予定時間の12時に到着。現地に行くまでは小雨と霧であった。笹ヶ峰グリーンハウスでは雨は



図1 笹ヶ峰グリーンハウスでの昼食



図2 笹ヶ峰高原の様子

降っていたが霧が晴れ、牧場の牛を見ることができた。

笹ヶ峰グリーンハウスの食事は笹ずし定食（笹寿司と野菜料理など）で、ボリュームがあり、「おいしかった」の声あり。

## 2) 笹ヶ峰高原の森林セラピーとノルディックウォーキング（図3, 図4, 図5, 図6）

8名が参加（1名はツアーの数日前から足の調子が悪くグリーンハウスで待機）。雨の中であったが、雨ガッパを着て実施できた。

森林セラピーは、4名が参加、森林セラピストの敷根氏の指導により、まず、木に触れながらじっと目を閉じ、日常とは違う森の中へ出発する準備をした。途中、雨の音・風の音を聴く、植物に触れるなど、徐々に五感を使いながら、自然を感じる体験を進めていった。途中、横になってリラックスする場所は、地面ではなく、清水ヶ池の近くの休憩所で行った。静かに瞑想したり、自生植物の説明を聞きながら歩いた。予定より10分ほど遅れて15時40分頃に終了した。参加者からは、「自然に触れ、いつもと違う体験ができた。よかった」などの声があった。



図3 森林セラピーの説明



図4 森林セラピーの実施

ノルディックウォーキングは予定通りツアー参加者4名と教員1名が参加した。このコースについては内田氏の指導で開始前に30分程度の予行があり、歩行に慣れてからウォーキング開始となり、距離も1.5キロから2.5キロに延長された。時間は予定通りに終了した。「指導者の説明が面白かった。歩いてよかった。楽しかった」の声があった。



図5 ノルディックウォーキングの実施



図6 ノルディックウォーキングのゴール

### 3) 温泉ソムリエのお話と入浴（図 7, 図 8）

遠間旅館に予定より 30 分ほど遅れて 16 時 40 分に到着した。温泉ソムリエの遠間氏より、温泉入浴法などの話を 40 分間程していただく。参加者は、温泉に関するテキストを見ながら、熱心に聴いていた。「温泉の入り方など役に立つ話が聴けてよかったです」等の感想があった。その後、夕食前に 1 名が入浴した。遠間旅館での夕食では改めて参加者の紹介も行い、和やかな雰囲気であった。ほとんどの参加者は夕食後に温泉に入ったが、数人から、「今日聴いた温泉の入り方をやってみた」という声があった。



図 7 温泉ソムリエのお話



図 8 遠間旅館での夕食

## 2. 2 日目

朝食前に朝風呂に入った人が多かった。朝食をとり、予定通り 8 時 40 分に遠間旅館を出発した。予定通り、正善寺工房に 9 時 40 分に到着した。

### 1) 正善寺工房での野菜調理体験（図 9, 図 10）

指導者の上越野菜の話とレシピの説明後、3 テーブルに分かれて調理する。レシピを見て、うまく分担しながら、予定より早いペースで次々に料理ができていく。男性の参加者も、積極的に調理に参加していた。



図 9 上越野菜を使った献立



図 10 正善寺工房での調理体験

メニューは「焼きナスのかき玉あんかけ」「新ショウガの混ぜご飯」「オクラとミュウガのサラダ」「カボチャ白玉」の 4 品の予定であった。予定より早くできたので、指導者であ

り野菜ソムリエの資格を持つ梅田氏が急遽 1 品を追加された。参加者から、「美味しく、勉強になった」という感想がきかれた。

## 2) 健康パンフレット（図 11）

今回のモニターツアーで体験した内容を動機づけとし、今後の健康作りに活かしてもらうために、「食事について、運動について、ストレス軽減・リフレッシュについて」の健康パンフレットを看護大教員の担当者が作成し、参加者に配布した。「手作りでよくできている、絵がたくさんあり、とても見やすい、家に帰ってからもまた見直したい」の感想がきかれた。

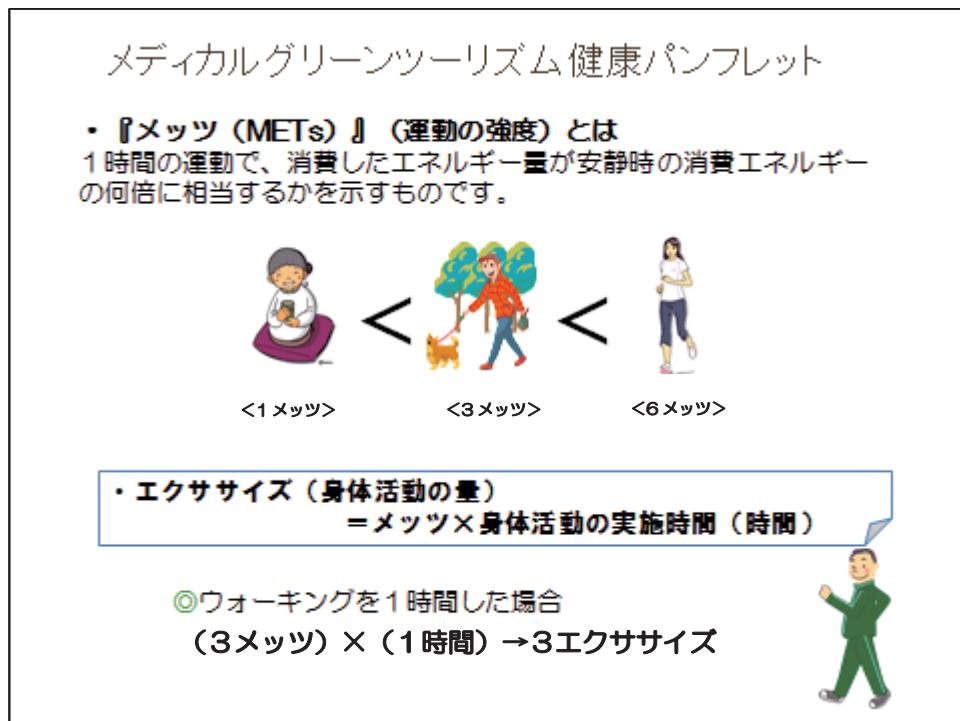


図 11 健康パンフレットの一例

## 3) 見送りまで

その後正善寺工房で買い物をし、アンケートも実施したが、予定より 40 分程早く終了したので、添乗員に連絡して工房でマイクロバスを待ち、14 時に出発した。

ツアー参加者の希望で、予定になかった看護大学の見学が入った。見学後、15 時頃に直江津駅へ向かった。直江津駅では、台風・大雨の影響で列車のダイヤが乱れていたが、遅れて到着した電車に乗車してもらい見送った。その他の方々は紹介教員が対応した。

## IV. まとめ

今回のアンケートの回答では、ツアー内容は盛りだくさんであったが、各体験とも満足度は高かった。森林セラピー、ノルディックウォーキング、温泉ソムリエの話、野菜調理体験は、参加者全員が満足とやや満足の欄に解答した。また、教員が作成した「健康パンフレット」は、役に立つが 7 名、やや役に立つが 2 名であった。再度ツアーの機会があれば参加したいが 7 名、何とも言えないは 2 名であったことから、ねらいどおり、参加者に楽しんでもらえたものと考える。今後の課題とブラッシュアップ案については別の項で報告する。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー  
介護準備・学習コース実施報告

永吉雅人, 城戸裕子, 平澤則子

I. はじめに

介護準備・学習コースは、「上越の介護サービスの状況をふまえ、食を通じて介護と将来の生活像を感じるプラン」として、地域の施設を組み合わせることで新たな価値の創出を目指した他では見られない新規性の高いコースとして設計した。アピールポイントは次の5つで、介護施設見学と食の工夫体験、そして温泉と観光とした。

1. 上越地域の3種類の介護施設を見学、その状況を肌で感じることができること。
2. 大学で介護の中での「食」を考える時間を過ごし、食の工夫体験ができること。
3. 上越を代表する2つの料亭で、介護を感じる特別な昼食をとることができること。
4. 温泉ソムリエのいる赤倉ホテルにて、赤倉温泉100%源泉掛け流しの湯でゆったりと過ごすことができること。
5. 観光ガイド付で「親鸞聖人ゆかりの地」巡りができること。

そして、参加者を募った後、モニターツアーを平成23年9月28日(水)から29日(木)まで実施した。ここではその概要を報告する。

II. 参加者概要

参加者は、50歳代1名、60歳代4名、70歳代7名の合計12名であった。男女別では、男性2名、女性10名で、居住地は東京2名を除くと妙高3名、上越7名と上越地域での参加者が多かった。また、12名全員が看護大学教員からの紹介であった。

III. ツアー実施概要

1. 1日目

1) 住宅型有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」(施設見学1)

JR直江津駅南口集合(10:30)を参加者の希望により看護大学(10:30)集合に急遽変更し、マイクロバスにて住宅型有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」へ向かった。そこでは入居費用・選択できる食事・入居者状況などの説明があり(図1, 2)、介護が必要になった場合には同じ施設内の訪問介護サービスが受けられ、さらに介護付有料老人ホームに優先的に入居できることであった。



図1 サンクス高田・自在館での説明



図2 サンクス高田・自在館の見学

## 2) 料亭「宇喜世」にて昼食

1階で椅子式にて昼食を頂いた(図3, 4). ここでは、豪華な昼食を楽しみにツアーを申し込んだ旨の声が聞かれた. 予定では「宇喜世」に80分間の滞在予定であったが予定を繰り上げて60分間となった.



図3 料亭「宇喜世」での食事



図4 料亭「宇喜世」の昼食内容

## 3) 小規模多機能型居宅介護施設「ケアホームあいびす」(施設見学2)

小規模多機能型居宅介護施設とは何か、そして、ここでは可能な限り自宅での介護を支えるために「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを行っているとの説明を受けた(図5).



図5 ケアホーム「あいびす」での説明

見学後マイクロバスで癒しの家「池の平」へ向かった.

## 4) グループホーム癒しの家「池の平」(施設見学3)

この施設は立地場所が温泉地であることから、入居者やその家族がいつでも温泉入浴ができるようになっていた(図6, 7).



図6 癒しの家「池の平」の見学



図7 癒しの家「池の平」での説明

入居料金が高い施設から順に見学したためか、入居費用に関する質問が多くあった。また、多くの参加者から「このような複数の施設が見学できて、大変貴重な体験をさせてもらった」というような、満足の声が聞かれた。

### 5) 赤倉ホテル

赤倉ホテルに到着すると、恒例のホテル手作りの「おはぎ」で歓迎され（図8）、ゆったりとした時間を過ごした（図9）。



図8 赤倉ホテルのおはぎ



図9 赤倉ホテルでの夕食内容

しかし参加者から「部屋から温泉までの距離が長かった」「シャワートイレが利用できなかつた」等、多くの不満が聞かれた。チェックアウト忘れの参加者がいた。

## 2. 2日目

### 1) 大学での講義・体験

赤倉ホテルを8:00に出発して看護大学へ向かった。9:00より本学の精神・老年・地域看護学実習室にて上越市高齢者支援課の高橋氏から介護保険関係の話があった。介護認定の質問が多くだされた。話は少々難しい感じがした。

続いて本学の城戸准教授の「食」に関する話（図10）があり、最後にスポーツドリンクに「とろみ剤」を入れて、味がどのように変わるかの実験があった。とろみの工夫をする時間が少し短かったが、イラストの多い資料が好評であった。



図10 城戸准教授の講義

### 2) 「長養館」にて介護食付の昼食

「長養館」に12:00少し過ぎて到着、事前にお願いしていた通り1階の椅子席での食事であった（図11, 12）。しかし用意された椅子と食台の高さのバランスが悪く食べにくい感があった。長養館では、老舗料亭の介護食を用意してもらい、料理長から具体的な工夫の説明を受けた（図13, 14）。介護食は参加者で試食した。長養館での滞在は90分間と予定していたが、実際には70分間であった。



図 11 料亭「長養館」での食事



図 12 料亭「長養館」の一般昼食内容



図 13 長養館料理長による介護食の説明



図 14 長養館の介護食内容

### 3) 親鸞聖人ゆかりの地巡り

長養館にて岩嶋観光ガイドと合流ののち、親鸞聖人ゆかりの地巡りの観光を行った。海からの聖人上陸の地（居多ヶ浜）（図 15）からはじめり、五智国分寺、居多神社、国府別院を巡り、最後に淨興寺（図 16）を見学した。ガイドの丁寧な説明と楽しいオシャベリは好評であった。淨興寺の説明の後 15:40 に観光が終了となり、そこでガイドと別れた。天気は、（若干暑いくらいの）晴天であった。



図 15 観光ガイドによる居多ヶ浜の説明



図 16 観光ガイドによる淨興寺の説明

参加者が高齢者であったため、かなりの距離を歩くことはハードであったと思われた。バスに残ったり、ベンチに座ったりするなどして、個々のペースで見学をしていた。上越市の

参加者が多かったことも、階段のあるところの観光が省略された原因と考えられた。間隔の狭い階段が多くあり、杖を利用されている方には大変厳しい観光であった。

### 3. その他

城戸准教授による、バスガイド（図17）が好評であった。短い時間ではあったものの、ミニ授業や頭の体操、観光ガイドなど盛りだくさんであった。



図17 城戸准教授によるバスガイド

### IV. おわりに

「介護施設を見学する」というツアーは、「とても満足」の声が多かった。参加者には「近い将来を想像することによって、現時点の行動を具体的に考えている」雰囲気が、感想や質問から多くうかがえた。

また、モニターツアー後のアンケートには、12人中6名が「再度参加したい」とのことであった。「再度参加したい」と表明された6名の参加者は、自分の今後を考えているため、さらに詳しく学習したい方々であると考えられる。

高齢者の参加者が多かったこともあるが、下記の点が課題として残った。

1. 車椅子の準備（今回はツアー当日の準備）
2. バスのステップ（踏み台）を用意
3. 食事の場所は1階（今回は、たまたま1階であった）
4. 宿泊場所の検討・吟味

## メディカルグリーンツーリズムの今後について

事務局長 佐々木 稔

### 1. 事業実施の経緯

平成22年1月に上越で開催された移動知事室の際、泉田知事から渡邊学長に、防災グリーンツーリズムの一つとして、医療・福祉に関するものを看護大学でできないかと打診があった。

急遽、平成22年度のグリーンツーリズム（農林水産部）予算で予算化（150万円）され、アンケート調査、内容の検討、シミュレーションの実施等を行った。

平成23年度も同様に150万円の予算が付き、9月に3コースのモニターツアーを実施した。

### 2. モニターツアーの内容

内容については省略するが、各コースとも1人あたり2万円程度の補助を行い、各コースそれぞれに異なる評価があった。

### 3. 今後についての考え方

北陸新幹線の開業が2015年春に予定されており、上越地域の行政機関や各団体を構成員とした「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」が結成され、開業に向けてのさまざまな取組が検討されているところである。

メディカルグリーンツーリズムは、首都圏等を対象に誘客するアイデアとして、「連携会議」でも注目されており、その内容がJRやJTBなどの旅行エージェントに認められた場合は、本格的に商品化され、上越地域への誘客に大いに貢献する可能性がある。

商品化の前段階として、専門家による現地調査が行われるのは、早くても2013年度と考えられることから、評価を得た内容については、少なくとももう1回モニターツアーを行って、内容をブラッシュアップする必要があるものと考える。

### 4. 平成24年度の案

#### 1) 健康チェックコース

今年度の実績からみて、誘客が見込めないことから、廃止する。

#### 2) 健康改善リフレッシュコース

参加者9名のうち、また参加したいとの意向が7名からあり、コースとしては評価されたものと考えられる。

北陸新幹線開業時のツアー候補として、「連携会議」及び妙高市との連携のもとで、モニターツアーを今一度開催することとした。

誘客対象は、妙高市と友好関係にある北名古屋市の住民とし、定員30名、2泊3日のバスツアーに改編して実施するよう協議しているところである。

参加者からのアンケートをもとに、ツアー内容の評価を得るとともに、できれば「連携会議」に参加しているJRやJTB出身者からも参加していただき、専門家としての評価を得ることとした。

### 3) 介護準備学習コース

参加者12名のうち、また参加したいとの意向が半数の6名であった。十分見学したとの意向ではないかと思われる。事前の会議でも、地元を対象として実施してほしいとの声があつたことから、看護研究交流センターと上越ツーリストの連携事業として、地元を対象に、日帰り旅行として、継続実施していくこととした。

なお、2)、3)については、過去2年間のような別枠予算は要求せず、「連携会議」、妙高市との連携のもと大学の持つ既存予算の中で執行していくこととする。



介護準備・学習コース2日目、上越市の介護保険制度を聴く参加者  
(看護大学実習室)

メディカルグリーンツーリズム  
健康改善・リフレッシュコース ブラッショアップ案について

山田真衣 水口陽子

## 1. はじめに

上越地域の行政機関や各団体を構成員とした「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」が結成され、北陸新幹線開業に向けて様々な取組が検討されている。その中で、メディカルグリーンツーリズムが行っている、健康改善・リフレッシュコースについて興味を示していただいた。今回、「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」と妙高市との連携のもとで、健康改善・リフレッシュコースをブラッショアップし、もう一度モニターツアーを行う。それにより、内容が商品化できるのであれば、上越地域への集客に貢献できると考える。

また、妙高市より「運動」「温泉」「旅行」を行うことでの、リラックス効果についてのエビデンスを明らかにしてほしいとの依頼があった。これらを明らかにすることは、今後の事業に生かせることができ、地域貢献に役立つとともに、研究的視点からの検証は大学の役割として重要であると考える。

## 2. モニターツアー実施の振り返りについて

平成23年9月21日（水）から22日（木）に行われた、モニターツアー参加者からの意見と、実施担当者の振り返りを元にツアーの問題点について整理し、今後のツアー計画に反映できるように検討を行った。

今回のモニターツアーでは、9項目の問題点（表1）が抽出された。問題点の内容を整理すると、①モニター参加者のツアー参加準備での問題点、②旅行スケジュールの時間調整、③ツアー内容の充実の3点であった。

この問題点を解消しながら、「運動」「温泉」「食」の3つを軸に再検討することで、より良い実現可能なツアー計画ができると考えている。

表1. モニターツアーでの問題点

- モニターツアー参加者の確保
- 集合場所
- マイカーの駐車場所と駐車代金
- 山歩きの時間の少なさ(3時間以上の確保)
- 移動距離と時間配分
- 旅館出発時間の検討
- 露天風呂希望に関する実現性
- 20名以上が料理体験できる場の確保
- おみやげを購入する場の確保

## 3. ブラッショアッププランの内容について

### 1) 参加者について

モニターツアーの参加者の確保については難航した。そのため次回の参加者の確保については、妙高市の未来プロジェクトグループの協力を受け、妙高市と提携を結んでいる北名古屋市の住民に向けて募集を行う。集合場所については、北名古屋市市内とし、マイクロバスで移動していただく。

### 2) 旅行スケジュールの時間調整について

今回のブラッショアッププランのモニターツアー参加者は、北名古屋市からの参加となる。北名古屋市から妙高市までは、マイクロバスで約6時間かかるため、移動時間を考慮して2

泊3日でのツアーに修正することとした。

前回のモニターツアーでは、1日目に【運動体験】と【温泉ソムリエ講座】を行ったが、今回のプラスシュアップ案では1日目に【温泉ソムリエ講座】、2日目に【運動体験】を行うこととし、無理のないスケジュールを計画している。

また、3日目は帰宅のための移動距離が長いため朝の出発時間を遅めに設定するとともに、【健康食づくり体験】を行う会場も、妙高市市内で行う場所を確保し時間調整を行った。

### 3) ツアー内容の充実について

前回のモニターツアー参加者からの、アンケート結果より露天風呂や野天風呂の希望が多く挙がった。【温泉ソムリエ講座】の講習を受けた後、さまざまな入浴を体験したいという参加者からの希望と考えた。そこでプラスシュアッププランでは、燕温泉での入浴体験をプランに追加する。燕温泉は、弘法大師発見の湯として古くから栄えた温泉場であり、岩石に囲まれた野趣あふれる「黄金の湯」と乳白色の「河原の湯」がある。1回の旅行で、赤倉温泉と燕温泉を体験できることからも、ツアーとして充実するのではないかと考える。

## 4. モニターツアースケジュールとプラスシュアッププランスケジュールの比較

### 1) 1日目の概要

1日目 (9/21) 旧案

時間	スケジュール
10:30	JR 直江津駅集合 マイクロバスに乗車 希望者に万歩計の貸与
12:00	笛ヶ峰グリーンハウス到着 昼食・休息
12:45	《POMS・唾液検査》
13:15	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
15:30	《POMS・唾液検査》
15:45	
15:50	笛ヶ峰グリーンハウス出発
16:10	遠間旅館到着（赤倉温泉）
16:30	【温泉ソムリエ講座】
17:20	講義終了
17:30	夕食まで自由 《POMS・唾液検査》 温泉入浴 《POMS・唾液検査》
18:30	夕食 以降フリータイム

1日目 プラスシュアップ案

時間	スケジュール
8:30	北名古屋市集合 マイクロバスに乗車・出発
14:30	妙高市到着 「とまと」で休息・時間調整
15:20	遠間旅館到着（赤倉温泉）
15:30	講義の会場到着 モニターツアーの説明 健康パンフレットの配布
16:00	【温泉ソムリエ講座】
17:00	講義終了
	講義を行った会場で連絡 お部屋の部屋割り確認 お部屋の鍵のお渡し 各旅館・各部屋へ移動
17:30	夕食まで自由 《POMS・唾液検査・血圧測定》 温泉入浴 《POMS 唾液検査・血圧測定》
19:00	夕食 以降フリータイム

1日目は、北名古屋市からの移動時間を考慮し、スケジュール内容は【温泉ソムリエ講座】のみとした。また、夕食前に入浴できるよう夕食時間も30分遅く計画した。

## 2) 2日目の概要

### 1日目 (9/21) 旧案

時間	スケジュール
10:30	JR 直江津駅集合 マイクロバスに乗車 希望者に万歩計の貸与
12:00	笛ヶ峰グリーンハウス到着 昼食・休息
12:45	『POMS・唾液検査』
13:15	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
15:30	『POMS・唾液検査』
15:45	
15:50	笛ヶ峰グリーンハウス出発
16:10	遠間旅館到着 (赤倉温泉)
16:30	【温泉ソムリエ講座】
17:20	講義終了
17:30	夕食まで自由 『POMS・唾液検査』 温泉入浴 『POMS・唾液検査』
18:30	夕食 以降フリータイム

### 2日目 プラッシュアップ

時間	スケジュール
7:30	朝食 (7:30より準備を整えていただく)
8:30	宿泊先出発
9:00	笛ヶ峰グリーンハウス到着 『POMS・唾液検査・血圧測定』
9:30	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
12:30	運動体験終了 『POMS・唾液検査・血圧測定』 検査終了した方から昼食 笛ヶ峰グリーンハウスで昼食 食後は集合時間までフリータイム
14:15	笛ヶ峰グリーンハウス集合
14:30	笛ヶ峰グリーンハウス出発
15:30	燕温泉 山の湯宿 針村屋到着 ・針村屋：野天風呂・展望風呂あり。 休憩所あり。 ・河原の湯：完全混浴（徒歩15分） ・黄金の湯：男女別（徒歩5分）
17:00	針村屋集合
17:15	燕温泉出発
17:45	赤倉温泉到着
19:00	夕食 これ以降フリータイム



燕温泉街



黄金の湯

2日目については、【運動体験】と【燕温泉の野天風呂】をスケジュールに組み込んだ。ブラッシュアッププランでは、【運動体験】を3時間確保することで、自然を心身共に十分満足できるのではないかと考える。また、前回のモニターツアー参加者からの希望で多かった、野天風呂体験についてもスケジュールに追加した。滞在時間は90分程度であるが、日没とともに入浴ができなくなるため、妥当と考えている。野外風呂や混浴風呂に抵抗がある参加者もいると思われるため、燕温泉での拠点地予定の針村屋には、日帰り風呂も開放していただく予定である。また、針村屋の日帰り風呂の解放は、雨天時でも燕温泉の湯に入れるという利点があり、天候による予定変更の必要がない。

### 3) 3日目の概要

2日目 (9/22) 旧案

時間	スケジュール
8:40	宿泊先出発
10:00	正善寺工房到着 上越野菜の【調理体験】
12:00	作った料理の試食
13:30	片づけ
14:00	アンケート調査用紙の記入
14:30	正善寺工房出発 バス内にて万歩計の回収
15:40	直江津駅到着・解散

3日目 ブラッシュアップ案

時間	スケジュール
8:00	朝食 (7:30より準備を整えていただく)
9:10	宿泊先出発
9:40	都市農村交流施設到着
10:00	【調理実習型体験】
11:30	昼食
12:30	後片付け アンケート調査用紙の記入 『POMS』 都市農村交流施設出発
12:45	岩の原ワイン 蔵見学・試飲
13:30	上越市出発
20:30	北名古屋市到着・解散

3日目は、【調理実習型体験】を行う。前回のモニターツアーでは、正善寺工房で上越野菜の調理体験を行ったが、正善寺工房では15名程度しか調理をすることができない。そこで、30名以上の方が調理できる施設として、妙高市にある都市農村交流施設を使用する。この施設は、40名程度の収容が可能であること、宿泊施設がある赤倉温泉からも近いため移動に時間が掛からないという利点がある。【調理実習型体験】でのメニューについては、今後調理指導をしていただく梅田みどり氏と検討してゆく予定である。

### 5. おわりに

今回のブラッシュアップ案については、9月に行われたモニターツアー参加者からの意見と、実施担当者の振り返りによるツアーリの問題点を反映しながら検討を行った。また、内容や時間配分については、健康改善・リフレッシュコースの売りである【運動体験】【温泉ソムリエ講座】【調理体験】の3つが、より効果的に実施できるよう再検討した。

今回構成し直したブラッシュアップ案の実施については、外部員のみなさまをはじめ、様々な分野で活躍されているインストラクターの方々の協力が不可欠である。みなさまの協力を得ながら、ブラッシュアップされたモニターツアーを実施してゆけたらと考える。

おわりに

看護研究交流センター長 栗生田友子

私たちの教員スタッフは、杉田特任教授のもと、水原氏の貴重なご示唆を頂きながら、2010年より看護研究交流センターの特別研究部門を置き、「メディカルグリーンツーリズム」の事業展開を進めてまいりました。

当初、グリーンツーリズムに、メディカルの要素である「健康と福祉」を取り入れたとはいえ、果たして都会で生活している人たちが、上越地域の自然にどれだけ関心を寄せるのか、どのくらい人々との交流に関心を寄せるのか、健康な生活と安心できる福祉をどうこの地を巡って展開できるのか、模索の月日がありました。そもそも、あまりにツーリズムに走れば、私どもの大学でやる意味があるのだろうかと…という考えが頭をよぎったのも事実です。

企画において難しかったことは、一つに、三つの事業案を具体的に組み立てていくこと、どのような面白いプログラムにするかがありました。二つ目に、どういった日程を組むか、いつの時期に何日くらいの日程で企画するかがありました。そして最後に予算との競合ではなかったかと思います。けれども精力的に動けるスタッフがこの部門に参加していたことが何より、課題の多い事業を一つ一つ解決していくことへつながったように思います。

残念ながら、実行シミュレーションの日程には、台風の到来があり、参加者の人数が少なかったことは起こりましたが、プラン自体はとてもよかったです。私はスタッフの頑張りに敬意を伝えたいと思います。

今後、私たちの課題は、このプランを土台に、本当に健康と福祉の展開において意味のあるものにし、地域の中に還元することだと考えています。近隣行政組織や、住民の皆様に、こうした事業展開に協働していただきながら、新潟県立看護大学が参与する意味を大切にし、大学が、大学としての存在価値を發揮して、さらに地域に貢献できるよう力を発揮していきたい—そう思います。

関係された皆様のご協力と、メディカルグリーンツーリズムの成果をたたえるとともに、私ども看護研究交流センターは、今後もこの事業の進化を約束し、力をつくしたいと思います。

最後に、この企画を新潟県に発案し、とても興味深い構想をもちこんで私たちの力を引き出してくれました渡邊隆学長、計画から実施に至るまで見守ってくださった佐々木稔事務局長をはじめとする看護研究交流センタースタッフの皆様、そしてこの企画に賛同し一緒に思案し最後までご協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。

平成 23 年度  
新潟県立看護大学看護研究交流センター 活動報告書

平成 24 年 4 月 25 日 発行

発行 新潟県立看護大学  
〒943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地  
TEL 025-526-2811 (代)  
FAX 025-526-2815

編集 新潟県立看護大学 看護研究交流センター

印刷 北越印刷株式会社

